

14. 4-774
1200501208547

14.4
774



始



14.4

774

昭和二年八月刊

國際水產統計要覽

農林省水產局

凡例

一 本書は大槻清三氏の編著に係るものであるが、水産に關する有益の資料と認め同氏の承諾を得て印刷に附した。従て内容の調査説明が本省のものでないことは言ふまでもない。本凡例の二以下は大槻氏が本書の爲に書かれたる其の儘のものである。

二 本書は、統計に據りて世界水産業の大勢を究め彼此對照の便に供するを目的とする。

三 引用參考書は主として各國の公刊統計に據り、推定は其方面の研究者の意見を參酌せり。

四 分類は學術上の名稱に依らずして専ら統計書類にある普通名若しくは商業名に従ふ。

五 國名、地名、品名等は廣く一般に用ゆる漢字を宛て、略字は其頭字の一、二字を取る、例へば

北米合衆國は……米國又は米

西班牙、葡萄牙は……西、葡

蘭領東印度……蘭印、英領西印度……英西印、海峽植民地……海植等である。

六、内容統一の必要上、左の單位、基準に従ひ、然ざる場合には特に附記せり。

(イ) 數量單位 ……メートル法

即ち噸は一千疋で約二、二〇五封度又は我二百六十七貫と換算した。

(ロ) 價額單位 ……各國本位貨幣



但し比較必要上本邦圓貨に換算する場合は全部法定平價に據りたるも、近年の如く國際爲替相場の正貨輸送點と相違甚しき時期には、當然酌量すべきであるが平均爲替相場の計算困難の爲め次の如き換算率に従ふ。

磅……一〇圓。弗……二圓。法……三九錢。クローネ……五四錢。フロリン……八〇錢。
馬……四八錢。エスカト……二圓一七錢。海關兩……一圓五〇錢。海峽弗一圓一四錢。等

(ハ) 指數基礎

大戰前と比較する必要上、一九一一年乃至一九一三年の内を適當に定めて一〇〇とせり。

(ニ) 年次 西曆年次

但し曆年に據らざる年度を用ゆる國に於ては最初の年次に従ふ。

例へば加奈陀は四月一日より翌年三月末日迄、濠洲聯邦、印度、新著島、玖馬等は七月一日より翌年六月末日迄なるも斯の場合は一九一三—一九一四年は一九一三年とせり。

七 本書は前に編纂せる國際水産資料（大正十三年三月出版せるもの）の増補訂正の意味にて同書を引用せる部分多きを以て参照されたし。

而して猶全般に通じて精粗あり調和を失せる點あるを認む。他日の調査と識者の示教とにより其完成を俟つ。

國際水産統計要覽

目次

緒論	……………	一頁
第一章 概要	……………	一
第二章 生産	……………	四
第一節 漁業	……………	四
一、漁場	……………	四
面積	……………	
二、漁業種類	……………	七
漁場別—嗜好別	……………	
三、漁船	……………	一〇
漁船總數—動力附漁船數—大型漁船數	……………	
四、漁具	……………	一三
五、漁船、漁具價	……………	一四

六、漁業従業者.....	一五
漁業者總數—従業者一人當漁獲高	
第二節 漁獲.....	一八
✓一、總漁獲高.....	一八
二、重要國別.....	二〇
日本—英國—米國—諾威—加奈陀	
三、重要種別.....	二七
(1) 魚類.....	二八
鯨族—鱈族—鮭鱒族—鱈族—鯖族—鰈鱒族—メンヘーデン—鯛族	
(2) 軟體動物.....	四〇
牡蠣—其他介類—烏賊—柔魚	
(3) 甲殼類.....	四三
(4) 海獸類.....	四五
鯨—臘朥獸	
(5) 海藻類.....	四七

第三節 増殖.....	四八
第三章 利 用.....	四九
第一節 總 說.....	四九
第二節 食用品.....	五一
一、鮮魚介.....	五一
二、鹽乾燻製品.....	五二
米國—加奈陀—日本—朝鮮	
三、罐詰類.....	五六
鮭鱒—サンデー—其他	
第三節 其 他.....	六三
一、水産肥料、飼料.....	六三
二、工 用 品.....	六三
海産動物油—其他	
第四節 工場及従業者.....	六七
第四章 貿 易.....	六八

第一節 總 說.....六

第二節 食用品.....七三

一、總貿易高.....七三

二、主要國別.....七五

(1) 主要貿易國.....七五

(2) 供給國.....七五

(3) 需要國.....七六

三、重要類別.....七六

(1) 鮮魚介.....七六

(2) 調理魚介.....七六

 鯧—鱈—鮭鱈—鯖.....

(3) 魚介罐詰類.....八七

 鮭鱈—サーデン—鯧鱈—ロブスター—蟹.....

(4) 食用海藻.....九五

第三節 工用品其他.....九六

(1) 海産動物油.....九七

(2) 介 殼.....九八

(3) 海 綿.....一〇〇

(4) 肥料飼料.....一〇一

第五章 消 費.....一〇三

第一節 總 說.....一〇三

第二節 食用消費.....一〇三

一、重要國別.....一〇三

二、大都市別.....一〇四

第三節 其 他.....一〇五

一、魚肥料.....一〇五

二、海産動物油.....一〇五

第六章 經 濟.....一〇六

第一節 資 金.....一〇六

一、漁業資金.....一〇六

二、製造資金……………	104
第二節 投資と生産……………	104
第三節 處理加工と價值増加……………	110
第四節 魚價……………	111
一、平均單價……………	111
二、重要魚單價……………	111
第七章 最近の趨勢……………	113
第一節 總說……………	113
第二節 生産の増減……………	114
第三節 利用の進化……………	113
第四節 需給の變轉……………	117
第五節 價格の騰落……………	117
第六節 投資と生産……………	115
附、參考書……………	

緒論

我が地球の表面積は大凡五億一千万方呎にして、此の内陸地面積一億五千万方呎、海洋面積三億六千万方呎で、海洋面積は陸地面積の凡そ二倍半である。従つて海洋に生息する動植物は極めて多種多様にして、然かも天然の増殖力廣大なれば、之が利用は實に重要な産業である。故に古來各國共水産物の採捕は行はれたるも、陸地を資源とする産業を重要視せるに反し、水産物の經濟的利用を等閑に附したる結果、水産業は其進歩遅々として他の原始的産業に比し一籌を輸するは、止むを得ざる次第である。



然れども近時産業の發達に最も必要なる科學的研究と、組織經營とを利用する途多く行はれ、又歐洲大戰に於て陸産食物の缺乏を水産物にて補足した關係上、水産業の必要を著しく直感せしめ、斯業の將來に多大なる覺醒と、刺戟とを與へた次第である。就中我國の如く、土地狹小で人口夥多なる島國にありては、生活に必要な食料問題より見るも、亦國力發展の輸出振興策上より考ふるも、當然獎勵すべき産業である。今、國際水産界に於ける本邦の地位を見るに古來漁業は獨特の發達を示して、現時に於ける漁獲高は、各植民地を併せて年額約三百五十萬噸、五億圓内外で世界總漁獲高の數量に於て三割、價額に於て二割五分を占めて第一位に居るも、其の處理配給方法につきては未だ遺憾の點

多くして、経済的眞價を充分發揮し得ざる恐あれば、猶幾多の考究を必要とするのである。従つて國際水産業の現況と其の趨勢とを究めて、斯業將來の發展に資するは最も須要なる事項である。



第一章 概要

國際水産業の現況を要略すれば大凡次の如くである。

漁業

漁船總數	一、〇〇〇、〇〇〇隻
從業者總數	三、〇〇〇、〇〇〇人
漁獲總量	一一、〇〇〇、〇〇〇噸
漁獲總價	一、八〇〇、〇〇〇、〇〇〇圓
重要國別漁獲數量	
日本 本國	二、七五三、〇〇〇噸 (一九二五年)
英 本國	一、一〇五、〇〇〇噸 (一九二四年)
米 國	一、二五三、〇〇〇噸 (一九二八年)
諾 威	六一七、〇〇〇噸 (一九二四年)
加奈陀及新著島	七五五、〇〇〇噸 (一九二四年)
朝鮮 樺太	七六八、〇〇〇噸 (一九二四年)

重要魚族別漁獲數量

鯧	一、八〇八、〇〇〇噸	(一九二五年)
鯧	一、七三四、〇〇〇噸	(同)
鱈	八七八、〇〇〇噸	(同)
鮭	五三〇、〇〇〇噸	(一九二五年)
鯖	三七〇、〇〇〇噸	(最近)

製造

鹽乾製品

二、五〇〇、〇〇〇噸

魚介罐詰

二五、〇〇〇、〇〇〇噸

肥料飼料

四〇〇、〇〇〇噸

海產動物油

二〇〇、〇〇〇噸

食品貿易

貿易總量

三、四一六、〇〇〇噸

貿易總額

一、五〇九、〇〇〇、〇〇〇圓

重要品別國際移動高

鮮魚介

三二二、〇〇〇噸

煉製品

六一二、〇〇〇噸

鱈製品

三〇二、〇〇〇噸

魚介罐詰

二四七、〇〇〇噸

重要供給國輸出高

英國

三四三、〇〇〇噸 (一九二五年)

諾威

二九七、〇〇〇噸 (一九二五年)

加奈陀

二一七、〇〇〇噸 (一九二四年)

和蘭

一六三、〇〇〇噸 (一九二四年)

重要需要國輸入高

獨逸

三〇六、〇〇〇噸 (一九二五年)

英國

二二五、〇〇〇噸 (一九二五年)

米國

一一九、〇〇〇噸 (一九二五年)

支那

一八九、〇〇〇噸 (一九二四年)

佛國

九九、〇〇〇噸 (一九二〇年)

重要消費國食用消費高

日 本
英 國
米 國

一、三一八、〇〇〇噸 (一九二五年)
八六六、〇〇〇噸 (一九二四年)
七六二、〇〇〇噸 (最近)

第二章 生 産

第一節 漁 業

一、漁 場

水産生物は種類極めて多く、魚類のみにも約三萬種を算し、然かも各個の習性は自から相違あるので、其の棲息範圍は頗る廣大である。然れども現時の漁業組織に於ては、陸地に近く深度大凡二百米突以内、且つ海流の流るゝ處を經濟操業區域となすので其面積は自から局限せられて居る。

現今、重要漁場と稱せらるゝは、歐洲の北部、西部の海洋、北米に於ける新著島近海及太平洋沿岸又東洋にありては日本近海、支那沿海及「オホツク」海等で、其の面積は、歐洲漁場は約七十萬方哩、北米漁場は約四十萬方哩、東洋漁場は約六十萬方哩で、之れに「ベーリング」海(約三十二萬方哩)其他

を加ふるも精々二百萬方哩内外であらう。

而して世界に於ける二百米突線内の海洋面積は、約七百萬方哩である故、單に深度を條件として考ふれば漸く四分の一位を利用し居るに過ぎざる有様であるので、將來發展の餘地猶充分存して居る。

漁 場 面 積

歐 洲 (沿岸三哩の領海を除きたる二百米突線内)

- (1) バレント海 一二八、九一七^{方哩}
- (2) 諾威沿海 (北緯六十一度以北) 二九、六四八
- (3) パルチック海 一三四、八九一
- (4) 北 海 (北緯六十一度以南) 一五二、四七三
- (5) 氷島沿海 三六、六〇八
- (6) フアロー沿海 四、九四九
- (7) ロツカル島近海 三、四三〇
- (8) 英國沿海 一五九、二七一
- (9) ビスケー灣 (佛國及西班牙共) 三〇、八八六
- (10) 葡萄牙及モロッコ近海 (北緯三十六度迄) 二〇、四九六

計 七〇一、五六九

北米

(1) 北大西洋漁場 (新著島よりマツサチユセツト州沖迄)

七〇、〇〇〇^{方哩}

(2) セントローレンス灣

八〇、〇〇〇

(3) フンデー灣

八、〇〇〇

(4) 其他加奈陀大西洋沿海

二一五、〇〇〇

(但しハドソン灣を除く)

三七三、〇〇〇

計

東洋 (二百米突線内)

(1) 日本近海

六八、七〇〇^{方哩}

(2) 對島海峽

一五、五三〇

(3) 朝鮮沿海 (東岸)

六、一三〇

(4) 朝鮮沿海 (西、南岸、但北緯五十度以南)

二四、二八二

(5) 臺灣東岸

二、二七七

(6) 臺灣海峽

一一、七五九

(7) 支那沿海 (渤海、黄海、支那東海)

二七一、八〇五

(8) オホツク海

二〇四、〇〇〇

計

六〇四、四八三

二、漁業種類

漁獲方法は水産生物の種類、水陸の状態並に文化の程度によりて異り、千差萬別なるも漁具の構成より區別すれば、網漁業、釣漁業、雑漁業の三大別に分たれる。

而して各漁法の發達如何は、漁場の状態と漁獲物に對する國民の嗜好とに従ひて著しく差別がある。

(1) 漁場別

歐洲北部の海洋、大西洋北米北部附近及支那東海は何れも遠淺なる關係上、底曳網漁業に屬する「トロール」漁業、手繰網漁業の隆盛を極むるに反して、太平洋北米側漁場並に表日本近海は急深なる爲め巾着網漁業、延繩漁業及一本釣漁業の顯著なる發達を見るに到つた次第である。

今重要漁業國の漁業種類別漁獲高を見るに、遠洋漁業の漁獲量は各國共何れも網漁業によるもの大部分を占め其他の漁業によるものは少數である。

本邦に於ては、釣漁業によるもの猶三分の一を占むると雖も、本邦内地の總漁獲量より云へば、大

量生産たる鯧、鰺、其他は網具により漁獲せらるゝを以て大部分は網漁業の漁獲に属する。

遠洋漁業種類別漁獲高

種類	日本		英蘭		獨逸		米國	
	噸數	百分率	噸數	百分率	噸數	百分率	噸數	百分率
トロール漁業	三九,四五〇	一三	四三三,九三三	六三	一三八,〇〇〇	五九	二二,三三八	二四
網漁業	二〇四,八六九	五七	一九四,八五〇	三六	九〇,〇〇〇	四二	六六,四七五	七六
釣漁業	一一三,七二〇	三三	三〇,七三三	三	六	—	—	—
雜漁業	二,四一一	—	三八,一四三	—	—	—	—	—
計	三六〇,四五〇	一〇〇	六八七,七〇六	一〇〇	二一八,〇〇〇	一〇〇	八七,七〇三	一〇〇

(註) 日本は内地沖合、トロール漁業の漁獲高(一九二五年)英蘭は一級船(十五噸以上)のみの漁獲高(一九二五年)獨逸は海上漁業全部の漁獲高(一九二四年)米國は新英蘭州三港(ポストン、グロースター及ポートルランド)に陸揚の遠洋漁獲高(一九二四年)

(2) 嗜好別

水産物に對する嗜好は國民に依り多大なる相違あれば同一漁法に於ても、漁獲物の種類は歐米と日本とは異なるもの多く、其の著しき例はトロール漁業に於て確然と示されて居る。即ち英國の主要漁獲魚類は鱈鰈類であり、米國北大西洋方面に於ては「ハドック」を第一とするに反して、日本は

鯛、石首魚を第一位として居る。若し「オホツク」海に於て操業すれば、英國と同様の魚族多獲せらるゝは勿論であるが本邦人の嗜好に乏しく價額低廉なるため營利事業としては猶相當考慮を要するので計劃あれど未だ着手されざる次第である。

日英米に於ける汽船トロール漁業漁獲種類別

魚名	英蘭		北米合衆國		魚名	日本	
	噸數	價額	噸數	價額		噸數	價額
眞鱈	一〇五,二九七		三,七四一	二八六	眞鱈	三,七三九	一,五五三
ハドック	一一六,八九三		一五,九九九	八六	連子鯛	一,六三六	五二
其他鰈類	七七,三四		七五三	五	其他鰈類	八五八	三三六
鱈類	五五,三三八		四三	三	鱈類	三,八六〇	七四三
鱈類	一六,三三八				鱈類	六,二八三	八六九
鮫類	三,〇六八				鮫類	三,〇六四	五七七
鯖類	一一,三三三				鯖類	二,四一六	九一七
鯖類	三,四五五				石首魚	一〇,一八〇	二,三三三
鯖類	二,八二六		六九三	九	其他魚	七,四二二	一,三四三
其他	四二,五一五		二,三三八	一,三五	計	三九,四五〇	九,〇九四

(註) 北米合衆國は、一九二四年三十二隻にて「ポストン」「グロースター」及「ポートルランド」三港に陸揚せるもの

日本は一九二五年の漁獲高
 英蘭は一九二二年の漁獲高

三、漁船

重要水産國の漁船總數は百萬隻と思はるゝが、大部分は五噸に満たざる小舟であつて動力を使用するもの、若くは遠洋漁業に従事する數十噸の漁船は極めて少數である。

然れども、近時漁業の發達は、漁業區域の擴大と漁業方法の進歩に従ふて、船型は愈大に動力就中發動機を有するもの益増加を示すに反し、總數に於ては小規模の沿岸漁業衰退のため減少を示して居る。

又國別につきて云へば、北歐漁業國は遠洋漁業を主とするを以て、船數少きも優良漁船多數を占むるに反して南歐東洋の漁業國は沿岸漁業盛大なれば船數は多きも大形漁船動力附漁船は少數である。

漁船總數

國名	大戰前		最近		備考
	船數	年次	船數	年次	
英 蘭	一、三〇七	一九二四	一、三〇七	一九二四	戰前は小舟を含まず
蘇 蘭	七、〇五五	"	七、〇五五	"	
愛 蘭	四、〇一六	一九二二	四、〇一六	一九二二	

國名	大戰前		最近		備考
	船數	年次	船數	年次	
諾 威	六八、四九〇	一九一三	六四、四一〇	一九二三	戰前は小舟を含まず
瑞 典	二、九九四	"	一七、七三四	一九一八	
獨 逸	一八、四四二	一九二二	一三、六八三	一九二五	
丹 抹	一五、四八七	一九二三	一五、三九七	一九二四	
和 蘭	六、〇七五	"	五、一三七	"	
佛 蘭	二八、二九六	"	二二、三九七	一九二三	
西 班	一四、〇〇〇	"	三〇、六〇四	一九二〇	
葡 萄	一一、五八九	"	一一、九二三	一九一八	
伊 太	二八、五九五	一九二二	二六、七三五	一九二五	
新 著	一五、九一九	"	一三、〇四一	一九二五	
加 奈	三九、六七九	一九二三	三五、三三二	一九二四	
北 米	九〇、四八二	一九〇八	七九、三六四	一九一九	
日 本	四四、九六七	一九二三	三五六、九二〇	一九二五	
朝 鮮	一七、四〇一	"	三一、三四三	一九二四	
樺 太	五、〇三九	一九一四	六、七八一	一九二三	内六、三六五隻は竹筏
臺 灣	"	"	一一、一八八	一九二五	
チ ュニ	"	"	三、一七一	一九二三	
埃 及	"	"	八、二二九	一九二四	
南 阿	"	"	九三三	一九二四	

濠洲聯邦	三,九八八	一九二二	四,五五七	一九二六
新西蘭	?	—	一九二二	一九二四
計	八〇四,八八四	—	七六,三三五	—

附記 露西亞、支那其他を約二十餘萬隻と見て總漁船數を一百萬隻と推定する。

動力附漁船數

國名	一九一三年		汽船數機船數其他計	總漁船に對する比率%	最近		汽船數機船數其他計	總漁船に對する比率%	年次
	汽船數	機船數			汽船數	機船數			
諾威	二〇五	六,四九七	六,七〇三	一〇〇%	三四四	一六,六三五	一六,九六九	二六・三%	一九二三
英蘭及ウエールス	二,〇五四	三四七	二,四〇一	二五・五%	一九三一	二,五九三	四,五三三	四〇・三%	一九二四
和蘭	二二三	五三	二六六	四四%	二二三	二七八	五二〇	九〇%	一九二一
丁抹	—	三,一八一	三,一八一	二〇〇%	—	四,九六三	四,九六三	三〇・八%	一九二四
佛國	三五六	四三三	七八九	三・〇%	四九五	一,一六三	一,六五七	七四%	一九二三
日本	一三三	一,五二四	一,六六七	〇・四%	一〇八	一三,七〇五	一三,八一三	三・五%	一九二五
計	二,〇五	七二	五,三二	七八%	三四四	九,二二四	三〇四	九・八二%	一九二二

大型漁船數

國名	一九一三年	最近	年次
丁抹	—	—	—
英蘭	二,四〇〇	一,五三三	一九二二
日本	一三三	三三二	一九二二
計	二,五三三	一,八六五	一九二二

(註) 諾威は甲板を有するもの最近は一九二三年
 丁抹は十五噸以上のもの最近は一九二四年
 英蘭は十五噸以上のもの最近は一九二四年
 日本は

(1) 一九一三年は西洋型漁船、最近(一九二五年)二十噸以上
 (2) 一九一三年は長さ五間以上、最近(一九二五年)は五噸以上二十噸迄

四、漁具

漁具は種類多岐多様なれど大體に網具其他と區別せらるゝので重要漁業國につき種別漁具數を示せば次の如くである。

重要漁具類

國名	網具	其他	計	年次	備考
諾威	七六七,八一五	二二三,四四〇	九九一,二五五	一九二三	海上漁業のみ
加奈陀	一〇三,四五八	一,五六一,六八六	一,六六四,一四四	一九二四	重要漁具のみ
米國太平洋三州	一六,六六六	一一,六五一	二九,三二七	一九二三	重要漁具のみ

日	本	一、四三、七四	?	一九三二	重要網具のみ
朝	鮮	二四、五二三	三九四、二四五	一九三三	

五、漁船、漁具價

漁船、漁具の總價額は判明せざるも、之を推定するに最近に於ける重要國漁船の平均單價は約一千圓なれば、總漁船數を一百万隻と見れば其總價は約十億圓である。又漁具總價は漁船總價の略五割内外に概當する數字を得らるゝので、之れを五億圓とすれば、國際水産國の漁船漁具總價は約十五億圓と推定せらるゝのである。

漁船價

國名	船數	總價	同上圓價	單價	年次	備考
諾威	六六、六二九	一三、三九二 <small>千</small> クローネ	六、一七六 <small>千</small> 円	九一八	一九三二	
蘇格蘭	六、九五六	四、九二三磅	四九、一二〇	七、〇六三	一九三二	
丁抹	一五、三九七	二八、六三三クローネ	一五、四六二	一、〇〇四	"	
加奈陀	三五、三三一	一一、八四五弗	三三、六九〇	六七二	一九三二	
米國	七九、〇九〇	四六、七四六弗	九三、四九三	一一八二	一九三二	
日本	三五六、九三〇	—	一五八、四六二	四四四	一九三二	

(註) 日本の船價は農林統計に據り其新造船より單價を算出し現在數に乗じて計算したれば多少の疑問を存す。

漁具價

國名	漁具總價	漁船總價	對比率	年次	備考
諾威	五六、〇八九 <small>千</small> クローネ	一一三、三九二 <small>千</small> クローネ	五〇%	一九三二	
蘇格蘭	八五七磅	二、一八一 <small>千</small> 磅	四〇%	一九三二	
加奈陀	八、七九五弗	一一、八四五 <small>千</small> 弗	七四%	一九三二	
米國太平洋三洲	二、六三三弗	八、九〇二 <small>千</small> 弗	三〇%	一九三二	

六、漁業従業者

重要漁業國の漁業従業者の總數は、專業副業併せて三百萬人内外で、之を歐洲大戰前に比すれば約一割の減少を示して居る。而して漁業專業者は總従業者の約七割見當である。例へば日本に於ては總漁業者の四割五分、英國に於ては二割丁抹に於ては四割は何れも副業者である。又沿岸漁業を主とする日本、露西亞及南歐諸國は比較的多數の漁夫を用ゆるも「ノースシー」沿海諸國即ち英國、諾威、獨逸の如きは、少數者で多額の生産を擧げて居るので、各個人の所得金額は甚だしき差別がある。

漁業者總數

國名	大戦前		最近		備考
	員數	年次	員數	年次	
露西亞	四四五,〇〇〇	一九二四	?	一九二四	領土共
英格蘭	九九,五三〇	一九三三	三五,九六九	"	
蘇格蘭	一〇一,〇八六	"	二七,四五八	"	
愛威威	三三,六六五	一九〇七	一四,三七〇	一九三二	
諾逸	三〇,〇〇〇	一九一三	九七,三八三	一九三二	
瑞典	一七,六七九	"	二四,七六三	一九一九	本業者一二,八二五人
丁抹	二二,四五五	"	一八,六四九	一九三五	
和蘭	四三,六三三	"	一六,八〇九	一九二〇	
葡萄牙	七,五〇〇	"	三六,六七三	一九一八	
西班牙	一五四,九三二	一九二二	一三七,四四〇	一九二〇	アルゼリア共
佛蘭西	一二〇,二二四	"	一二,二二三	一九三三	
伊太利	四九,四五〇	"	一六二,七五三	一九一五	
新著島	七,七七六	一九一三	二九,七五三	一九三五	
加奈陀	三三五,〇〇〇	一九一一	五三,九一四	一九二四	
北美合衆	一,七四〇,七七〇	一九〇八	一九四,八五〇	一九一九	本業者六二萬人
日本			一,二三,一九九	一九二五	

國名	大戦前		最近		備考
	員數	年次	員數	年次	
朝鮮	二六三,三四四	一九二三	四五五,一九四	一九二四	
樺太	三〇,七四一	一九二四	一六,一〇五	一九二三	
臺灣	?		二〇,九一六	一九三五	本業者四萬九千人
チユニス	?		二,二〇一	一九三三	
埃及	?		四〇,七一〇	一九二〇	
南阿邦	?		三,八〇一	一九二四	
南阿邦	一〇,九三三	一九二二	一一,〇五六	一九一六	
濠洲	?		二,二〇一	一九三三	
新西蘭	三,五三一,六四五		三,〇一一,五五八	一九三三	

(註) 最近は露西亞は戦前の二分の一獨逸は戦前同數と見て合計した。

從業者一人當り平均漁獲金額

國名	總漁獲價	從業人員	一人當り金額	年次	備考
英國	二〇六,四七〇 <small>千円</small>	七七,八〇〇	二,六五四	一九二四	
諾威	一一〇,〇七四	九七,三八二	一,一三〇	一九二四	
丁抹	二四,一五〇	一八,七三三	一,二八九	一九二四	
加奈陀	五四,七三〇	五三,九一四	一,〇一五	一九二四	
米本	一八四,三三四	一九四,八五〇	九四六	一九一九	
日本	三五九,三六五	一一,三二,一九九	三三八	一九二五	

朝鮮	110,844	455,194	243	1934
----	---------	---------	-----	------

第二節 漁獲

一、總漁獲高

最近に於ける世界の總漁獲高は、大凡魚類九百萬噸、軟體動物及節足動物百萬噸、併せて一千萬噸、總漁獲價は海獸及海藻を加へて約十八億圓である。之れを十年前に比すれば數量に於て一割を、價額にありて約八割の増加を示して居る。

總漁獲高

國名	噸數	價額	同換算圓價上	年次	備考
露西亞	360,700	?	50,000	一九三三	歐洲のみ價額は推定
英國	1,065,746	20,647磅	206,470	一九三三	數量は魚類のみ、介類甲殼類は四萬噸位
諾威	677,155	204,199クローネ	110,074	一九三三	海獸七二、一〇一、〇〇〇クローネを含む
瑞典	41,535	13,799	7,451	一九三五	
獨逸	28,000	55,000マーク	26,950	一九三四	
丁抹	76,456	44,330クローネ	23,938	一九三五	

國名	噸數	價額	同換算圓價上	年次	備考
米島	81,068	2,780磅	27,800	一九三五	輸出高
和蘭	200,656	3,425フロロリ	25,940	一九三四	
白耳	10,000		9,500	一九三〇	數量は推定
佛蘭西	242,300		100,000	一九三四	數量は魚類のみ、介類甲殼類は十萬噸位、價額は推定
西牙	427,253	344,437ペソ	130,886	一九三一	
葡牙	100,000		43,098	一九一八	數量は推定
伊太利	30,000		6,763	一九一六	數量は推定
希臘	10,000			一九三三	アデン市魚市場の扱高のみ
土耳其	22,000	2,400磅	2,400	一九三二	歐洲トルコのみ
羅馬尼亞	25,057	219,945レイ	2,199	一九三四	此外約二萬噸の民營漁獲あり
新加坡	291,080	21,193弗	23,384	一九三四	輸出高、但し數量は四倍して生鮮に還元
加爾各答	463,739	27,365弗	54,730	一九三四	海獸は價格のみ
北米合衆國	116,230	92,177弗	184,334	一九一九乃至一九二四	
墨西哥	10,889			一九二三	米國加州に輸入せし分
日鮮	2,053,774		359,365	一九二五	數量は魚類のみで此外介類甲殼類四十萬噸、海藻類三十萬噸である
朝鮮	538,240		110,084	一九二四	
樺太	230,490		13,776	一九二四	數量重要魚族のみ
臺灣	40,000		10,031	一九二五	數量概數

西伯利	佛領印度支那	シヤム	スマトラ	澳門	埃及	チユニス	南阿聯邦	濠洲聯邦	新西蘭	其他	計
200,000	84,144	33,100	71,000	27,014	35,596	1,536	18,700	31,190	15,244	1,000,000	10,297,883
	129,925	2,587			1,863		946		390		
	フラン	銖			磅		磅		磅		
20,000	49,372	3,408		2,809	18,620		9,460	11,340	3,900	150,000	1,796,980
	1924	1924		1920	1924		1923	1925	1916	1923	
日本出漁高	輸出高、但し數量は二倍して生鮮に還元	同上	同上	同上	同上(支那へ)		魚類のみ	數量は魚類のみ		推定	

附記 其他は支那を主とし馬來半島、印度等とす
 又總量中には日本、佛國其他備考欄にある魚類、軟體動物甲殼類を加へた。海獸、海藻類の採捕量は不明なるも略百萬噸と推定する。

二、重要國別

重要水産國につき漁獲高に従ひて區別すれば日本、英國、北米合衆國第一位を占め諾威、加奈陀、露西亞、支那、朝鮮、佛國之れに次ぎ、西班牙、新著島、和蘭、獨逸、佛領印度支那等は第三位である。

即ち

日 本	英 國	米 國	諾 威	朝 鮮	佛 國	加 奈 陀
2,753,774噸	1,066,797	1,162,230	617,115	538,240	342,300	463,729
359,365千圓 (一九二五年)	206,470 (一九二四年)	184,234 (一九二四年)	110,074 (一九二四年)	110,084 (一九二四年)	100,000 (一九二四年)	54,730 (一九二四年)

重要國種類別漁獲高

日 本 (一九二五年)

種 類	噸 數	價 額	備 考
鯧 魚	471,864	14,930千圓	
鯧 魚	473,831	33,388	
鯧 魚	80,304	7,974	
鯧 魚	64,985	28,829	

農林統計に據る
英 本 國 (一九二四年)

種 類	噸 數	價 額	備 考
鯨 鯨	四六八,三三三	四,五三八	
鱈 鱈	一五九,四七三	三,三〇四	
ハドツク	一三〇,九六六	三,三四三	
ヘ	四三,一三三	一,五四三	
鯨 鯨	二〇,五三〇	八八八三	
鯨 鯨	四〇〇,〇〇〇	一四,二〇一	魚類以外の水産動物
鯨 鯨	一,五四七	五七,〇二三	數量は推定但し海獸を含まず
昆 布	一九七,一八〇	四,四三七	
紫 菜	四三,九〇六	一三,三一五	
石 花 菜	六三,三二二	二,〇九二	
其他 海藻類	?	四,四八五	
總 計	三〇〇,〇〇〇	二三,三三九	數量は推定
總 計	二,七五三,七七四	三五九,三六四	

種 類	噸 數	價 額	備 考
鮭 魚	七五,七二一	一三,九五三	
鱈 魚	三三,一三八	二〇,〇三三	
鯨 魚	二二,三四四	一一,六六八	
鯨 魚	五八,七九七	四,一八六	
鯨 魚	三八,二一〇	一,五八九	
鯨 魚	五八,四〇三	三四,八五三	
鯨 魚	四一,五三三	六,二七四	
鯨 魚	一七,二八三	五,二九三	
鯨 魚	一三,七五三	五,四九八	
鯨 魚	一二,七六三	二,七九	
鯨 魚	二七,二一六	二,八九〇	
鯨 魚	三九,一三一	五,六六五	
鯨 魚	五五,七二二	九,二二九	
鯨 魚	二,〇五三,七七四	二七九,〇一九	
鮑 魚	四,八〇四	二,九六七	
牡 蠣	二二,一〇〇	一,五五五	
蛸 魚	四三,七七〇	一,九三一	
烏 賊	二〇三,九三三	二,一九〇九	
鮭 魚	一六,七七四	四,〇二一	

種類	噸數	價額	備考
コールフイシユ	二二,九七五	?	
ホワイテンク	二六,二一八	?	
大 鱈	一〇,五八三	八三六	
ブ レ ー ス	三六,五一	二,〇三六	
ソ ー ル	八,〇二	七九七	レモンソールを含む
計	一〇,四九,七三三	一九,七九八	
介 類 其 他	四〇,〇〇〇	五五一	數量は推定
合 計	一,〇八九,七三三	二〇,三四九	

(註) 英蘭ウエールス及蘇格蘭のみで愛蘭を含まず。
米 國 (一九一八年より一九二三年間に於ける調査)

種類	噸數	價額	備考
メンヘーデン	四〇六,九八五	五,五四五	
鱈	五三,九二二	六九九	
鱈	四三,四九二	三,八六〇	
ハドック	四〇,六五〇	二,五四六	
鯨	一九,六五五	二,九三六	

種類	噸數	價額	備考
大 鱈	一四,八二七	三,五二四	
鯖	八,七六五	一,七八九	
シ ャ ッ ト	六,八八一	二,三五〇	
鮪	一一,六六七	一,二九二	
鮭	二二,一一〇	一〇,六一七	
鱈	四一,八七〇	一,三八一	
其他魚類	二九,〇八一	二五,七九一	
計	一,〇八七,九一五	六二,三三〇	
牡蠣	六六,三四八	一四,〇四〇	牡蠣共
ロブスター	五,五〇五	二,八三九	
鰈	二二,六〇〇	一,八九五	
蟹	一三,二一四	一,六二九	
其他	五七,三九六	七,六四八	
合計	一,二五三,九七六	九〇,三七一	

諾 威 (一九二三年)

種類	噸數	價額	備考
鯨	三〇,三四六	一八,六六四	

種	類	噸	數	價	額	備	考
鯨	コールフィッシュ		一七四、八三六		二八、〇四〇		
ハドツク	ハドツク		一八六、一八		三、三九八		
リク	リク		一〇、三八八		二、〇三三		
鯖	鯖		二、七三六		七一		
大	大		九、四四六		三、八二三		
プリスリンゲ	プリスリンゲ		二、七三三		三、〇一四		
鮭	鮭		一、五〇五		四、八四七		
ブ	ブ		七、五三		二、六八三		
鰈	鰈		八、四三		六、三		
ロ	ロ		五、九四		八、五八		
ブ	ブ		四、七三		一、三六九		
其	其		三、四、六八三		七、六四六		
計	計		五七〇、九五三		七、七五〇七		
海	海		五七〇、九五三		一四、七八八四		
合	合				七〇、三七三		

Norges Fiskerier. に據る
加 奈 陀 (一九二四年)

種	類	噸	數	價	額	備	考
鯨	鯨		一〇八、〇九〇		一、八七八		
鮭	鮭		一〇三、八五三		五、九六一		
鱈	鱈		九五、九三六		四、三六〇		
ハドツク	ハドツク		一七、一四六		六、一四		
大	大		一八、一五三		四、三三一		
鯖	鯖		一〇、九五三		七〇		
ス	ス		四、五八九		八、三六		
メ	メ		六、七〇九		九、一四		
ケ	ケ		八、五一		一、二九〇		
ホ	ホ		二、七〇七		五、四九		
小	小		一、三、八二七		二、八二四		
ロ	ロ		四、九、九六六		二、一〇九		
其	其				三、九一		
海	海				二、七、三六五		
合	合		四、六三、七三九		二、七、三六五		

Fisheries statistics canada. に據る陸揚高

鯨、海豹、海豚等
數量は魚類四三八、九七五噸、介類甲殻類二四、七五
四噸

三、重要種別
國際總漁獲物を魚類、軟體動物、甲殻類及其他に種別すれば、大凡次表に示す如くなるが、重要に
して漁獲高の巨額に上るものは漸く八、九族である。

漁獲類別

類名	重要なる種類	
	數量に依る百分率	價額による百分率
魚類	八〇〇	九〇〇
軟體類	一〇〇	六〇
甲殻類	一〇〇	四〇
其他	一〇〇	一〇〇
計	一〇〇〇	一〇〇〇

(1) 魚類

鯨族

最近の總漁獲高は約百八十萬噸、一億二千萬圓内外で之れを歐洲大戰前に比すれば數量に於て約一割の減少を示して居る。其主國は英國の漁獲高の減少にして、主要需要國たる獨逸、バルチック沿海諸國の購買力減退の結果である。

重要なる生産國は英國、諾威、日本で和蘭、瑞典、加奈陀等之に次ぐ。

鯨類漁獲高

國名	噸數	價額	換算價	年次	備考
英	三三九,九三〇	二,六七三 ^千 磅	二六,七二〇 ^千 円	一九三四	
蘭					

國名	噸數	價額	換算價	年次	備考
蘇格蘭	三三八,八八七	一,八六六磅	一八,六六〇	"	
愛蘭	七,二一八	五五	五五〇	一九三二	
諾威	三三六,一八六	二,三四九クローネ	一二,六〇八	"	
和蘭	六〇,七七六	一,三〇一フロン	一〇,四〇八	一九三四	
瑞典	二二,七九三	四,〇九〇クローネ	二,三〇八	一九三四	
丁抹	一七,七三三	五,七一"	三,〇八四	一九三四	
冰島	二〇,五〇〇	二,四四三"	一,三一九	一九三三	
獨逸	二二,五四〇	七,五〇〇マーク	三,六〇〇	一九三四	
佛蘭	一〇八,〇九〇	一,八七六弗	三,七五六	一九三四	
加奈陀	七,二四一	三五三"	七〇六	"	輸出品
新著	五三,九三三	六九九"	一,三九八	一九一八乃至一九三三	
北美合衆國	四七〇,一〇〇		一四,九三一	一九二五	
アラスカ	一八四,〇三三		五,八七四	一九三四	價額は總生産額
日本	三六,三三五		二,七三八	一九三三	一九二四年は二四、三七〇噸
樺太	二,九〇九		一〇八,五五〇	一九三五	日本出漁高のみ
朝鮮					
西伯利亞					
合計	一,八〇八,八七三				

(註) 茲に鯨類とは

鯷(日) Herring. (英) Haring. (佛) Sild. (諾) Sill. (瑞典) Hering (獨)
若くは夫れと同じきものである。

鯷 族

鯷族は鯷に次ぐ大量生産の魚族にして總漁獲量は約百七十萬噸、眞鯷約其七割を占めて居る。
重要生産國は、諾威、英國、新著島にして加奈陀、佛國、氷島、北米合衆國、日本等之れに次ぐ。
而して「ノース、シー」及新著島の漁獲は減少を示せるに反して、歐洲にありては氷島方面、東洋にあ
りては「ベールリング」「オホツク」兩海の漁獲漸進し將來生産地として重要地位を占むるは斯業者の豫期
をする所である。

眞鯷漁獲高

國名	噸數	價額	換算價	年次	備考
英 蘭	一三二、六四七	二、六七千磅	二六、一七〇	一九二四	
蘇 蘭	二七、八二五	五、八七〇	五、八七〇	"	
愛 蘭	一、六六三	五二〇	五二〇	一九二二	
諾 威	二三四、一八一	六三、八五六	三四、四八三	"	
獨 逸	三三、一八三	—	—	一九二五	トロール漁業のみ
丁 抹	一八、三〇一	五、〇〇三	二、七〇一	"	

國名	噸數	價額	換算價	年次	備考
氷 島	一〇〇,〇〇〇	二五、二七〇	一三、五六三	一九二二	數量は推定鯷類共
佛 蘭 西	一〇〇,四〇〇	—	—	一九二四	北海及新著島出漁高、數量は四倍して鮮
葡 萄 牙	二六、〇八八	一九、四八三	四、三二八	"	新著島出漁、數量は四倍して鮮魚に元還
新 著 島	二四五、四三五	一〇、五六〇	二、一一〇	"	輸出高、數量は約四倍して鮮魚に元還
加 奈 陀	九五、九二六	四、二六〇	八、五三〇	一九一八	
北 米 合 衆 國	四三、四九二	三、八六〇	七、七三〇	一九二三	
日 本	五八、七九七	—	四、一八六	一九二五	
樺 太 太 鮮	二五、七五三	—	一、五二一	一九二四	價額總生産額
朝 鮮	三三、一七〇	—	二、〇五四	"	
合 計	一、二七四、八九〇	—	一三三、六三六	"	

(註) 茲に眞鯷とは
鯷 (日) Cod. (英) Torsk. (諾) Morue. (佛)
若しくは夫れと同じき種類である。

鯷類漁獲高

國名	噸數	價額	換算價	年次	備考
英 蘭	一七三、三四七	—	—	一九二四	
蘇 蘭	五七、五六一	—	—	"	
愛 蘭	一、五七六	—	—	一九二二	

諾威	三五,二七九	六,九八八クローネ	三,七七三	一九二二	トロール漁獲物のみ
獨逸	三八,一八〇			一九二五	
和蘭	三〇,〇〇〇			一九一九	
丁抹	八,五九五	六,〇〇九クローネ	三,三四四	一九二四	ハドックのみ
瑞典	一一,三二〇			一九一九	
加奈陀	二九,七四六	八五九弗	一,七八	一九二四	新英蘭州に陸揚げせられたる分
北米合衆國	四三,四八九	二,七三三	五,四四四	"	鹽藏ハドックの輸出高
新著島	六六二	八四"	八四〇	"	
日本	五八,八〇〇		四,一八六	一九二五	
日太	六八七六		一,五二一	一九二四	總生産高
樺太	六五,二七〇		四,一一六	一九二三	
朝鮮	五五九,五九三				
合計					

(註) 茲に鱈類とは
 鱈、明太魚 (日) Haddock, Pollack, Hake, Cusk, Cool-fish, Whiting, Ling. (英) Sei. Hyse, Brosme, Lange, Hvilling Lyr. (諸) Kojia, Gadda, Lange Uiting (瑞典) Kuller, Grassøj (十) Merlans. (佛)
 若しくは夫れと同じ種類である。

鮭 鱈 族

鮭鱈族の漁獲量は、約五十萬噸で殆んど全部北太平洋に産し、大西洋産は極めて少數である。而して、太平洋鮭の漁獲量は、北米側六割、亞細亞側四割といふ見當なるが、其の種類より云へば

製品として價值ある紅鮭、銀鮭及鱈の助等は北米側に多産し安價なる鮭、樺太鱈等は亞細亞側にて多獲せらるゝので其の生産額より云へば遙かに懸隔がある。

然れども、近來米國側に於ては漁獲制限せるに反して、勘察加に於ける處理加工方法著しく改善せられて紅鮭罐詰の生産増加、冷凍鮭、改良鹽鱈等の産出に因り其生産價は著しく増大を示して居る。

鮭鱈族總漁獲高 (太平洋産)

國名	噸數	價額	換算價	年次	備	考
アラスカ	二四,一一〇	一〇,六〇九千弗	二,一二八千円	一九二二	鮭	
北米合衆國	一九,六五五	二,九三六"	五,八七三	"	鮭	
加奈陀	一〇,三八五	五,九六一"	一一,九二三	一九二四	鮭	
樺太	三,九〇四	八二七"	一,六三四	"	鮭	
西伯利	一,三二二		二八八	"	鮭	總生産額
西伯利	一七,四三四		一,七九三	"	鮭	本邦出漁のみ
西伯利	四〇,三二五			"	鮭	百石、二二、五噸とす
朝鮮	一〇三,七四一		一一九	"	鮭、鱈	
朝鮮	五六〇		五,四九八	一九二五	鮭	
日本	一三,七五一		二,七七九	"	鮭	
日本	一一,七六三					

合計	五三〇,三八	—	—	五二,一三三	—	—
----	--------	---	---	--------	---	---

(註) 茲に鮭鱒とは鮭、樺太鱒 (日) Salmon (英) 若しくは夫れと同じ種類である。

鱈 族

眞鱈、背黒鱈及「スプラット」等の漁獲量は百萬噸に近く大戦前の五十萬噸の約二倍である。主要産地は眞鱈、背黒鱈に於ては、日本を第一とし、西班牙、葡萄牙、朝鮮、北米合衆國等之れに次ぐ。更に概括的に數量より云へば太平洋八割、大西洋二割見當である。又「スプラット」は「ノースシー」の特産にして漁獲量僅かに二、三萬噸位で諾威、英國を主産地とする。有名なる諾威「サーデ」の原料たる「ブリスリンク」は即ち「スプラット」である。

歐洲諸國に於ては専ら罐詰の原料にするも太平洋沿岸諸國は多産する爲め食品原料以外相當肥料に製造する。

鱈 族 漁 獲 高

國 名	噸 數	價 額	換算價	年 次	備 考
英 蘭	二,八九五	千磅	千円	一九二五	スプラット
蘇 格 蘭	四,四七〇	千磅	千円	一九二五	鱈
	七,五二三	一七磅	一七〇	一九二四	スプラット

國 名	噸 數	價 額	換算價	年 次	備 考
愛 蘭	八〇	六,一六三クローネ	三,三三八	一九二二	同
諾 威	一,二六六	—	—	一九二四	ブリスリンク
瑞 典	一,四〇八	—	—	一九二四	同
佛 蘭 西	?	—	—	一九一七	鱈
葡 萄 牙	?	—	—	一九一八	同
西 班 牙	一,八〇〇	—	—	一九二〇	同
加 奈 陀	一,三九六	二二弗	四	一九二四	ピルチャード
	二七,〇〇七	五四九	一〇九八	一九二四	サーディン
北 米 合 衆 國	四,一八七〇	一,三八一	二,七六三	一九二二	鱈
日 本	四七,二八三〇	—	二,三三八	一九二五	眞鱈、背黒鱈、洞目鱈
朝 鮮	一一,一八〇	—	一〇,八二三	一九二五	鱈
臺 灣	七,六三三	—	六,二三四	一九二四	鱈
合 計	八七,八七三	—	八九八	一九二五	同

(註) 茲に鱈族とは 眞鱈、背黒鱈、洞目鱈 (日) Pilchard, Anchovy, Sprat (英) Brisling, (露) Skarp-sil, (瑞典) Sardine, Anchois, Sprat (佛) 若しくは夫れと同じ種類である。

鯖 族 (鯖、鯖、鯉、鱒)

鯖、鯖、鯉、鱒等の漁獲高は約四十萬噸内外である。而して歐米に於ては鯖を我國にありては鯖、

鯉、鯪を賞美する風習あるは周知の事である。従つて生産高も自然其關係に支配されて鯪は歐米産比較的多きも鯉、鯪に至りては殆んど大部分日本に於て漁獲されて居る。

鯖漁獲高

國名	噸數	價額	換算價	年次	備考
英 蘭	一〇、七三〇	一、四〇〇	千円	一九二四	
蘇 蘭	一、六四九	七〇〇	千円	"	
愛 蘭	八、三三七	三、一五九	千円	一九三三	
諾 威	七、五六四	一、六九五	千円	"	
瑞 典	四、九八三	二、〇九三	千円	一九三五	價額は一九二五年
丁 抹	二、〇九八	一、六五〇	千円	一九一九	
和 蘭	二、一〇五	七〇二	千円	一九一九	
佛 蘭	三、八二〇	一、七九〇	千円	一九一七	
加 奈	一〇、九五三	三、五七六	千円	一九二四	
北 米	八、七六五	三、五七六	千円	一九二八	
日 本	七五、七三二	一、二九五	千円	一九三三	
朝 鮮	六、五〇三	六、九一〇	千円	一九三四	
臺 灣	二、五八	一、〇四	千円	一九二五	
合 計	一九八、四七五				

(註) 茲に鯖とは

鯖 (日) Mackerel (英) Magueran (佛) Makrell (露) Makrill (獨)

若しくは夫れと同じものである。

鯖鯉類漁獲高

國名	噸數	價額	換算價	年次	備考
伊 太 利	三、〇三九		千円	一九二二	鯖
チ ュ ニ ス	八八二			一九二二	同
モ ロ ッ コ	四、〇〇〇			一九二五	同
西 班 牙	七、〇〇〇			一九二五	同
葡 萄 牙			一、〇〇二	一九一八	鯖、鯉
佛 蘭 西	六四三			一九一七	鯖及狐鯉
北 米 合 衆 國	A 二、四七六 B 五、二九四 C 一、五五三	一、二六九 五七六 六八	千円	一九二七 一九三三 一九三三	鯖 鯉 鯉
加 奈 陀	三六	四	八	一九三四	鯖
日 本	六九、七四 三三、一五〇 二二、二四四		三〇、〇三八 二〇、〇二四 一、六六八	一九三五 一九三五	鯉、惣太鯉 鯖 鯖

朝鮮	五八二〇	一九二四	鮪、鮓
臺灣	六三三〇	一九二五	鯉、惣太鯉
計	一七,四七九	一九二五	鮪、鮓

(註) 鮪、鯉とは
 鮪、鯉、鮓、(日) Tuna, Bonito yellowtail. (米) Thous, Pelamides, Bonites. (佛)
 若しくは夫れと同じものである。

鰈 鮓 族

鰈、鮓等の扁平魚族(Flat fish)は各種併せて約二十萬噸内外の漁獲高である。

主要産地は英國及日本で歐米に於ては「ソール」大鮓等は最も賞美せらるゝ魚類である。

鰈 鮓 族 總 漁 獲 高

國 名	噸 數	價 額	換 算 價	年 次	備 考
英 蘭	五〇,〇九三	千	千円	一九二四	
蘇 蘭	八,六五七	四七磅	四七〇	一九二二	
愛 蘭	八六八		一,五二七	"	
諾 威	三,四四〇	二,八二〇クローネ		"	
瑞 典	二,二八六			一九一八	

獨 逸	丁 抹	和 蘭	佛 西	加 奈 陀	北 米 合 衆 國	日 本	朝 鮮	樺 太	合 計
一四,六〇三	二二,七八九	一〇,七一一	五,五四八	一八,九七六	一四,九三二	四四,五九八	一五,四三七	二,〇四九	二五,一六六
	一七,三二クローネ		四,二六四弗	三,五二四"					
	九,三五〇		八,五二八	七,〇三八	七,九一三	一,七三八		六六	
一九二九	一九二五	一九一九	一九二七	一九二四	一九二二	一九二四		"	
ブレース大部分を 含む			大鮓を主とす	大鮓のみ	大鮓を主とす	同		鰈	

(註) 茲に鰈鮓族とは
 鰈、鮓、(日) Sole, Plaice, Turbot, Dabs, Brill, Flounder, Megrins, Halibut, (英) Rodsepitta, Flundra, Pigver. (瑞典) Flyndre, Kveite. (露) Flitan, Plir, Turbot. (佛)
 若しくは夫れと同じ種類を含む。

「メンヘーデン」 (Menhaden)

北米合衆國の大西洋沿岸にて多獲せらるゝ魚類で一九二三年に於ては約十一億餘尾(三〇二、八〇六噸)の漁獲で全部魚肥料として處理されて居る。

鯛

本邦に於て最も賞味せられ價額貴き魚類にして漁獲高は十萬噸に達せざるも、價額は五千萬圓に近く、之れに支那に於ける漁獲を加ふれば更に巨額に上るのである。

鯛族總漁獲高

國名	種類	噸數	價額	年次	備考
日本	眞鯛	五,四〇三	三,四八五	一九三五	
	黑鯛	二,九八八	二,三七四	"	
朝鮮	眞鯛	一,六六八	五二一	"	
	黑鯛	四,二八九	二,〇三〇	一九二四	
臺灣	眞鯛	五〇〇	一六〇	"	
	黑鯛	二,〇三八	四六八	"	
合計	眞鯛	六,〇九三	八三九	一九三五	
	黑鯛	六,三,四三五	三,七,一六九	"	
	連子鯛	三,五四一	二,五四七	"	
	連子鯛	九,七九九	一,八二八	"	

(2) 軟體動物

牡蠣

軟體動物で最も多産し且つ國際的のものは牡蠣である。最近の國際總採取高は約二千七百萬「ブッセル」、四千萬圓で此内米國は二千萬「ブッセル」二千八百萬圓、略四分の三を占めて居る。世界に於ける牡蠣の生産量は減少を示して十九世紀末には三千百萬「ブッセル」の生産があつたと云はれて居る。主要産地は北米合衆國及佛國で英國、和蘭、日本は之れに次ぐも其の量遙かに少數である。

牡蠣採取高

國名	噸數	價額	換算價	年次	備考
英國	一六,七四〇			一九二五	
蘇格蘭	五八三,五九一			一九一九	
佛蘭西	一,七四五			一九二四	
和蘭	一七,一七六	一三,六八弗	二五,三三六	最近	外、種牡蠣三七、四九〇萬ブッセル百五十萬弗あり
北米合衆國	一七,一七六	一六五〃	三三〇	一九二四	
加奈陀	二,九四四		一五六〇	一九二五	
日本	二,一〇〇		二七七	一九二四	
朝鮮	一,六〇三		七三四	一九二三	
濠洲	三,四五四				

(註) 茲に牡蠣とは
牡蠣、(日) Oyster. (英) Huithe (佛)
若しくは夫れと同じ種類である。

重要介類

牡蠣に次ぎて重要な介類は、歐洲に於ける貽貝(Muscle)北米に於ける「クラム」(clam)日本に於ける蜆、蛤、鮑等である。

採收高

國名	種類	噸數	價額	換算價	年次	備考
和蘭	貽貝	四八〇四		二、九六七 <small>千円</small>	一九一三	
英國	貽貝	一一八三一		一九二五		
米國	烏貝	一五、七四八	一九一〇弗	三八三〇	最近	Cackle
加奈陀	クラム	四、三九〇	六一弗	一三三		
加奈陀	クラム	六、一三三	三三〇"	六四〇	一九二四	
加奈陀	クラム	四、八〇四		二、九六七	一九二五	
日本	鮑	四三、七三〇		一九三二		
日本	蜆	六、〇五二		五七四		
合計	蝶螺	一〇七、三〇三		六四三		
合計	貝螺	三、二四〇		三〇七		

烏賊及柔魚

烏賊及柔魚は、歐米に於ては殆んど食用には供せざる爲め其の漁獲少數なるも、東洋に於ては之れを嗜好する關係上多額の漁獲がある。

支那の漁獲は不明なるも日本朝鮮の漁獲高は次の如くである。

日本	二〇三、九三二 <small>噸</small>	二一、九〇九 <small>千円</small>	一九二五年
朝鮮	一、八四六	三二八	一九二四年

(3) 甲殼類

甲殼類は各國を通じて最も嗜食せらるゝ種類なるが其の漁獲高は餘り多大ではない。重要なる種類は勿論、蝦蟹類である。就中最も賞味され且つ價格貴きは北米産の「ロブスター」日本特産のタラバ蟹等にて近來南阿聯邦の「クレーフイッシュ」は其生産著しく増加を示して居る。

重要甲殼類漁獲高

國名	種類	數量	價額	換算價	年次	備考
英 蘭	ロブスタ	八〇四、〇〇〇尾	千	千円	一九三五	
蘇 蘭	クレイフィッシュ	一一四、〇〇〇				
愛 蘭	ロブスタ	九三三、一九九	六三磅	六三〇	"	
諾 威	ロブスタ	八九三、四五〇	三六	三六〇	一九三三	
瑞 典	ロブスタ	五五三噸	一、二〇八クローネ	六五三	一九三三	
佛 蘭 西	小 鰈	三九五	四七六	二五七	"	
新 加 坡	各 種 蝦	四九〇噸			一九一九	
佛 蘭 西	各 種 蝦	三、八四三			"	
加 納	ロブスタ	九六八、〇〇〇尾			一九三四	
米 國	ロブスタ	一三、八二七噸	二、八二四弗	五、六四八	一九三四	
樺 太 國	ロブスタ	五、五〇七	二、八三九	五、六七八	一九一八	
日 本	小 鰈	二〇、二六〇	二、八九五	三、七九〇	一九三三	價額は總生産價
日 本	龍 蝦	五、六三七		一、七五〇	一九三四	
日 本	小 鰈	一、五二二		一、四七三	一九三五	
日 本	龍 蝦	一八八、二〇〇		七、四〇九	"	
日 本	龍 蝦	五、二二四		一、一五二	"	
日 本	龍 蝦	一一〇、三七五噸			"	工船漁業による確計
日 本	龍 蝦	五三、八三九噸			"	日本出漁による確計
西 伯 利 亞	タラバ					
南 阿 聯 邦	クレイフィッシュ	二〇、〇〇〇、〇〇〇尾	五〇〇	五、〇〇〇	一九三五	

(註) 茲に示せる種類は次の名稱に屬する

龍蝦、タラバ蟹、鰈 (日) Lobster, Crayfish, Shrimp, Prawn. (英) Hummer, Reker. (諾威) Homard, Langouster. (佛)

(4) 海 獸 類

海獸として重要なものは、臘虎、臘膈獸、鯨及海豹である。而して前二者は重要生息場たる白令海の獵業は日英米露の四國協約で一九二七年十二月迄禁止されて居るので其の捕獲數も協約に因る少數に過ぎざれば現時に於て重要視さるゝ海獸は鯨族である。

鯨

鯨は種類多く其の生息場も頗る弘汎に亘りて、捕獲總數大凡一萬五千餘頭である。

現時に於ては捕鯨業の中心は南極圈附近の海洋にして、之れに次ぐは日本近海及阿弗利加西岸である。

重要な捕鯨國は諾威にして、同國人の經營せる會社は世界各國に亘りて、一九二四年に於ける捕獲頭數は七、四六一頭である。之れに次ぐは日本で一九二五年には一、七〇七頭を捕獲して居る。

主要生産物は油脂にして、鯨肉を食用に供するは日本を主とし歐米に於ては近時多少之れを食用にする傾向がある。

捕鯨總數

漁場名	頭數	年次	備考
水島綠島北極圈等	八六〇	一九二四	諸威人分
蘇格蘭	三八三	一九二五	
西班牙近海	一、二七三	一九二四	諸威人分
加陀奈	四一五	"	三六〇、〇〇〇弗
北米西	三五五	"	生産額三九一、七八一弗内探油脂六三三、二〇〇ガロン三三六、〇〇〇弗
北米合衆國	五九八	一九二〇	智利人經營一會社探油一〇、二〇〇樽
智利	二〇三	一九二二	諸威人分
西部アフリカ	一、〇六六	一九二四	英國人經營二會社、探油三一、八〇〇樽
英領南阿近海	?	"	諸威人二會社、英國人二會社、アルゼンチン人一會社、探油二四六、〇〇〇樽
南シエットランド島	四、〇〇〇	"	諸威人六會社、英國人一會社、探油二〇三、四七五樽
南シエットランド島	三、六三八	"	汽船捕鯨一、五八八頭一、九三四、〇〇〇圓
日本近海	一、七〇七	一九二五	一一九頭 一九四、〇〇〇圓
濠洲、新西蘭			
合計	一四、四八六		

臘豚獸

國際的保護の下にある白令海に於ける重要蕃殖場の繁殖状態並に禁獵以來の屠殺頭數は次の如くて

ある。

蕃殖場	獸群總數		增加率	毎年屠殺累計	備考
	一九二三年	一九二五年			
日本海豹島	八、九八八	二六、六三四	二九六・四三%	七、二四六	
日米本	二二五、九四〇	七三三、〇五〇	三三四・八六%	二〇三、〇一八	
露米日	一〇、七三〇	一九、九二〇	一八四・七三%	?	革命後の分判明せず

農林省水産局の調査に據る。

(5) 海藻類

海藻を採取利用する主要國は、日本、蘇格蘭、諾威、佛國及米國等で歐米に在りては沃度製造原料に殆んど全部當てらるゝも、東洋に於ては食用、糊料を主とし沃度製造原料は從である。

而して、沃度製造原料に用ひる海藻の採取高は、沃度工業の盛否に因りて一定せざるも、一九二一年に於ては歐洲の原草採取高は約四十萬噸で内十萬噸は佛國であつた。

日本に於ては不明なるも同年に於ては約十萬噸と推定せらる。又北米太平洋沿岸に於て採集せらるゝもの相當あれば併せて六七十萬噸見當であらう。

食用、糊料として、重要な種類は日本及其殖民地を主産地とする。

重要海藻採收高

品種	國名	噸數	價額	年次	備考
昆布	日本	一九七、一八〇	四、四三七	一九二五	總生產額
紫菜	日本	一三、〇一五	六〇八	一九二四	
和布	日本	四、九〇六	一三、三五	一九二五	
和布	日本	三、五八三	一、五五四	一九二四	
和布	日本	一三、三三八	一、〇一七	一九二五	
和布	日本	二〇、九六三	一、三四九	一九二四	
石花菜	日本	六、三三二	二、〇九二	一九二五	
石花菜	日本	四、六八三	五三八	一九二四	
海蘿	日本	二、九七七	九三九	一九二五	
海蘿	日本	七、七七	一、〇四七	一九二四	
合計		三三、四九一	三五、七六六		

第三節 增殖

水産生物は天然増殖力の絶大なるは勿論なるも、近來濫獲其他の原因で河湖は勿論近海に定着せる魚介類の漁獲高は漸次減少する傾向があるので、各國共魚介類の人工孵化放流並に移殖の事業は著し

く勃興を來し其最も發達せるは米國、加奈陀及日本である。

然して湖沼淺海及其他の水面を利用して人工池中養殖を行ふ地方は、淡水魚類にありては日本獨逸を主とし、鹹水魚類に於ては臺灣瓜哇を重要地とする。

孵化放流尾 (單位百萬個)

國名	卵	稚魚	二年魚又は成魚	計	年次	備考
米國	一、〇五〇	四、二四	一三七	五、三〇一	一九二五	國營孵化場に於て放流せるもの
加奈陀	二七	八六五		八九三	一九二四	同上
日本		二五七		二五七	一九二三	鮭、鱒
		一五		一五	"	鱒
		三九五		三九五	"	鮎
		八九八		八九八	"	公魚

農林省水産局水産増殖調査書(第一冊)及 Annual report of the commissioner of fisheries U. S. A. (1925) に據る。

第三章 利用

第一節 總說

現時に於ける水産物の利用方面は大凡次の如くである。

食用品、肥料、飼料及工用品

而して水産物の大宗たる魚介肉は蛋白質を多量に含有し、且つ吾人の嗜好に適するを以て、大部分は食用に利用されて居る。其處理加工状態は國に依り自ら異なり、歐米に於ては魚介類は殆ど全部食用に供せられ、僅かに諸威の鯨、北米合衆國の「メンヘーデン」鱈、アラスカ、加奈陀の鯨、鱈を、肥料餌料に處理する位で、總漁獲高の漸く一割内外に過ぎざるも、日本に於ては、大量生産たる鯨、鱈等の肥料に製造せらるゝ量多きを以て、食料に利用せらるゝ割合は歐米に比して劣つて居るのである。之れに反し海藻類は歐米に於ては主に沃度製造原料に用ひらるゝも、日本に於ては大部分は食用品である。

最近に於ける魚介類の處理割合を推定せば大凡次の如しと見て大差なからう。

生 賣 高	二、五〇〇、〇〇〇噸
罐 詰 原 料	一、〇〇〇、〇〇〇噸
鹽 乾 品 原 料	五、〇〇〇、〇〇〇噸
肥 料 其 他 原 料	一、五〇〇、〇〇〇噸
計	一〇、〇〇〇、〇〇〇噸

魚類處理狀態

種 別	蘇 蘭		加 奈 陀		日 本	
	噸 數	百 分 率	噸 數	百 分 率	噸 數	百 分 率
總 漁 獲 高	三四三、一〇四	100.0	四三八、九七五	100.0	二、〇五三、七〇四	100.0
內 譯						
生 賣 高	一五九、四〇六	四六四	一三三、八八五	三〇・五	七九〇、九七七	三八・五
食 品 原 料	一八三、六九八	五三・六	二八五、一九九	六五・〇	五三七、六七九	二五・七
肥 料 原 料					三五、〇四八	三・五八
餌 料			一九、八九二	四・五		

(註) 本表は蘇格蘭(一九二五年)加奈陀(一九二四年)及日本(一九二五年)の魚類のみの處理狀態にして副産物と見るべき肥料は各國共、之れを肥料に計上せず。

日本の處理狀態は農林商工統計の魚製品を生鮮に還元して算出せるもの、多少の差異あるべきも参考として掲げた。

第二節 食用品

一、鮮 魚 介

生鮮のまゝ直接食用に供せらるゝ數量は確然せざるも、少くとも總漁獲高の四分の一、即ち二百五十萬噸内外と推定せらる。近來冷蔵事業の發達に従ひ、長期の貯藏並に、遠距離輸送の途著しく開けたれば、生鮮としての需要は益々増加の傾向を示して居る。鮮魚介の冷蔵事業の最も發達せる米國に

つき示せば次の如くである。

魚介冷凍數量（單位 噸）

年次	米國	備考
一九二〇	四、九三六	
一九二一	三六、六九八	
一九二二	三四、一六〇	
一九二三	四、六〇八	
一九二四	四、三三六	
一九二五	四、四三六	

而して北米太平洋沿岸各地に於て冷凍せられたる魚類は、一九二六年に於て二二、八三二噸（大鮮四六% 鮭三九%）にして、太平洋を隔て、對岸たる堪察加、オホツク、沿海州、北樺太の各地に於て本邦人の手にて冷凍、氷藏運搬せられたる鮭鱈は、一九二五年に於て一三、八二七噸（三萬一千餘石）であつた。

二、鹽乾、燻製品

罐詰以外の魚介製品は、各種併せて、二百萬噸乃至三百萬噸と推定せらる。重要なものは、鹽水漬鱈、鹽乾鱈、鹽藏鮭鱈及鹽藏乾製鱈等で、之れに次ぐものは、鯖、鯉製品である。而して此等製品を

概括的に地區別推定せば、國際生産高は次の如くである。

調理魚介（罐詰を除く）總生産高

地名	噸數	年次	備考
日本	二六八、五二八	一九二五	
朝鮮	九七、四四〇	一九二四	
樺太	二〇、〇〇〇	一九二四	
西伯利亞	一〇〇、〇〇〇	最近	各種製品六五萬石としての計算
支那	一〇〇、〇〇〇	最近	一九二四年の海關輸出の國産品は二萬噸輸出高併せて一〇萬噸なれば其二倍と見て推定
其他	二〇〇、〇〇〇	最近	
米國	一〇〇、〇〇〇	一九二四	
加奈陀	一〇四、六四八	一九二四	輸出高
新著島	六七、五四八	一九二四	輸出高
歐洲各他國	一、二〇〇、〇〇〇	最近	總輸出高約八〇萬噸なれば其五割増と推定
計	二、五〇〇、〇〇〇	最近	

猶、重要國の種類別生産高を示せば

米國（アラスカ共）（一九一九年）

種類	噸數	價額	備考
鹽藏	五四,二六〇	一九,三三一	
燻製	一五,四二〇	五,六四五	
其他		五,七〇〇	
計		三〇,五七六	

種類	噸數	價額	備考
鹽藏	七二,〇〇六	三,〇一四	
燻製	二五,〇五三	三,九三三	
其他	八,五五〇	一,二四四	
計	一〇四,六〇九	八,一九六	

日本(内地)(一九二五年)

種類	噸數	價額	備考
計	一五,七〇三	三,〇四八	

種類	噸數	價額	備考
素乾	八〇,四一〇	二九,九九七	
煮乾	二七,九〇二	八,九六一	
燻乾	四,九八八	二四,七四三	
其他	二八九	三三四	
計	一一五,一八〇	一,一五八	
計	四九,〇五六	四六,五五四	
計	二六,五三八	一五三,〇三六	

附記 單に魚介類製品のみで、此外食用海藻類約二〇萬噸、一千萬圓がある。

朝鮮(一九二四年)

種類	噸數	價額	備考
素乾	一一,一五六	四,三七〇	
煮乾	八一,五八	二,二五六	
燻乾	一三,一四三	七,三二五	
其他	三三,三九五	四,三三一	
計	三三,五八六	八,四三〇	
計	九七,四四〇	二六,五九二	

附記 此外食用海藻類五千噸、三百萬圓である。

三、罐詰類

最近に於ける魚介罐詰の總生産高は、約二千五百萬箱内外で、斯業の最も隆盛を極めたる歐洲大戰時代に比すれば多少遜色あるも、最近北米に於ける鮭鱈及鯷罐詰は著しく増加を示して居る。之れを生産地により大別すれば、

(單位 箱)	
北米諸國	七割
歐洲諸國	二割
東洋諸國	一割

にして、重要生産國たる米國、加奈陀及日本の類別生産額を示せば次の如くである。
北米合衆國(アラスカ共)(一九二五年)

品名	箱數	價額	備考
鮭 鱈	六,〇一八,五五〇	四七,三六九 <small>千箱</small>	メインサーデン(鯷) カルフォルニヤサーデン(鯷)
サードイン	一,八七〇,七八六	六,七二六	
計	一,七二四,九一三	六,三八〇	
牡蠣	六五四,七五五	三,七二一	

品名	箱數	價額	備考
鮭 鱈	一,一〇三,四七一	八四九九	罐詰を含む
鰾 類	七三,七二四	三,七八二	
ク ラ ム	四八四,七〇二	一,八五〇	數量は推定を加ふ
其 他	三〇〇,〇〇〇	二,二六〇	
計	一,三,八八一,八九一	八〇,五七七	

品名	箱數	價額	備考
鮭 鱈	一,七四九,〇六八	一〇,三三三 <small>千箱</small>	
サードイン	二八二,三〇六	八一〇	
眞 鱈	一四,八九八	六〇	
鯷 類	一,三二七	七	
鱈 類	五,三六〇	四一	
ロブスター	一〇,二八七	二,六五〇	
ク ラ ム	三三,四七三	二,四三	
其 他	六三六	五	
計	二,二八八,九三八	一四,一五三	

日本 (一九二五年)

鮭	132,556	106,641	21,052,240	553,904	453,176	3,350,527
鮭		13,530	1,065,395	148,909	589,067	1,816,902
スチールヘッド				14,859	2,389	17,248
計	132,556	138,171	22,117,635	568,772	455,572	3,367,775

附記 Pacific Fisherman. の年鑑及日露漁業株式會社鮭鱈年報に據る。

而して生産の傾向は、戦時中軍需品として歐洲の需要激増の結果、各産地共増加を示して居るが、品種別より見れば重要なる「レッド」「シルバー」等の増加率は少く、安價なる「ピンク」「チャム」の増加に因るのである。

「サーデイン」罐詰

茲に「サーデイン」罐詰とは、前述の通り廣義の意味である。品質優良なるは、眞鱈の「オリーブ」油漬で佛國、西班牙、葡萄牙に産し、之れに次ぐは、諾威産の「ブリスリング」(諾威鱈と稱するもの)の製品である。而して安價にて多産するは小鱈の油漬で諾威、北米合衆國及加奈陀にて製造せられて居る。就中米國「メイン」洲附近を中心とする「メイン、サーデン」の如きは一時四百萬國內外の産出があつた。

國名	種類	生産函數	年次	備考
佛國	眞鱈	21,760	1934	輸出高

西班牙	同	1,500,000—1,500,000	最近	
葡萄牙	同	1,982,680	1934	輸出高
諾威	ブリスリング	1,330,530	1934	同
北米合衆國	小鱈、小鱈	1,575,157	1934	鱈は僅に(5%)
加奈陀	小鱈	282,306	1934	
計		約 7,000,000		

(註) 輸出高は千キロ、四〇函として換算す。

其他魚介罐詰

鮭鱈、サーデイン罐詰を除きたる爾餘の魚介罐詰中重要種につき概數を示せば、

品名	國名	箱數	年次	備考
鱈	北米合衆國	1,707,895	1935	殆全部トマトソース漬
鮭、鯖、鯉	加奈陀	148,898	1934	
	日本	60,000	1935	大部分は鮭油漬
	北米合衆國	1,183,163	"	
	日本	300,000	"	
	北米合衆國	363,007	"	小鱈の「マスタード」及トマト漬
	加奈陀	1,317	1934	
	英國			六、三〇〇噸輸出あり主に「キッパード」鱈

ク ラ ム	タ ラ バ 蟹	ク レ イ フ イ ッ シ ュ	ロ ブ ス タ ー	鰕	牡	鰕
加 奈 陀	北 米 合 衆 國	南 阿 聯 邦	日 本	新 著 島	加 奈 陀	日 本
三、四七三	三三、五六六	八九、三八〇	二四、〇〇八	三、八一五	一〇、八七一	一〇、〇〇〇
一九三三	"	"	一九三五	"	"	"
各種クラム	一九二六年には四十萬噸輸出高四八封度一函換算	輸出高	一九二六年には四十萬噸輸出高	輸出高	輸出高	輸出高

六二

第三節 其他

一、水産肥料、飼料

魚類を肥料若しくは家畜飼料に處理する國は、前述の如く日本、北米合衆國、加奈陀及諾威等が主で、其種類は、鯨、鱈、「メンヘーデン」、等である。此外副産物として鱈其他の魚類廢棄物を利用するもの相當にあるのである。又其生産總量は各種併せて約四十萬噸内外で、日本及米國が重要生産國である。

水産肥料、飼料生産高

國名	種類	生産噸數	年次	備考
日本	鯨 鱈 其他	二七、二八	一九三五	
太利	鯨 鱈 其他	三八、三三三	一九三四	
西伯	鯨 鱈 其他	七三〇	一九三五	
朝鮮	鯨 鱈 其他	二、三三三	一九三四	
北米合衆國	鯨 鱈 其他	七三、九〇六	"	價額二、九一二、六九八弗「メンヘーデン」約半數を含む
加奈陀	鯨 鱈 其他	三三、〇三三	"	半數は餌料とす
蘇格蘭	鯨 鱈 其他	一三、七六	一九三五	價額二〇六、五〇〇磅
諾威	鯨 鱈 其他	三三、七三四	"	肥料は三、二〇〇噸二〇、四〇〇磅
印度	鯨 鱈 其他	約 四〇〇、〇〇〇	"	輸出高約三割は鯨製品

二、工用品

海水産動物油

海産動物油は鯨、鱈、鯨、鱈、「メンヘーデン」等を重要視する。總生産高は大凡二十萬噸内外で、鯨油、魚油各十萬噸と推定せらるゝのである。

六三

重要生産國は、魚油にありては、日本、北米合衆國、諾威、加奈陀、新著島等であり、又鯨油に於ては、從來重要捕鯨場であつた北太平洋は著しく減少し、南極圏を漁場とし、南阿近海、南米の南端「フオー克蘭ド」島、南「シエトランド」及南「ジオルジャ」島を中心とする捕鯨業が全盛を極めて居る。此外太平洋に於ける北米沿岸、日本近海及濠洲、新西蘭沿岸等である。而して斯業の權威者は諾威人で、其採油高は總生産量の六、七割を占めて居る事は、次表に依り判明するであらう。(單位樽)

年次	世界總生産高	諾威人生産高	備考
一九一〇	六五,〇〇〇	三四,〇〇〇	
一九一一	七五,〇〇〇	四九,〇〇〇	
一九一二	七五,〇〇〇	六〇,〇〇〇	
一九一三	七五,〇〇〇	五五,〇〇〇	
一九一四	六五,〇〇〇	四七,〇〇〇	
一九一五	六五,〇〇〇	三六,〇〇〇	
一九一六	三八,〇〇〇	二〇,〇〇〇	
一九一七	三四,〇〇〇	一五,〇〇〇	
一九一八	三〇,〇〇〇	一六,〇〇〇	
一九一九	四二,〇〇〇	二二,〇〇〇	
一九二〇	四六,七三〇	二八,三一〇〇	

一九二二

六五〇,〇〇〇

三九〇,〇〇〇

海外商報一三〇號に據る

次ぎに最近の鯨油及魚油の生産高を示せば

鯨油生産高

地名	數量	年次	備考
諾威	三,一四〇樽	一九二二	
氷島	三,〇五〇"	"	
シエトランド	六,八五〇"	"	
アラスカ	四,一四三噸	一九二四	
北米合衆國	二,一五二"	"	
英領コロンビア	一〇,三〇〇樽	一九二三	
智利	一一,七三〇"	"	
佛領コンゴ	三,一八〇"	"	
南阿聯邦	二四六,〇〇〇"	"	
南ジオルジャ	二〇三,四七〇"	"	
南シエトランド	三,五四七噸	一九二五	
日本			

朝鮮計	鮮	三、五三噸	一九二四	
		九六、三三〇		

(註)「パールル」語は(一六五疋入)六樽を以て其他は三百「ガロン」を以て一噸と計算す。

魚油總生産高

國名	種類	噸數	價額	年次	備考
蘇格蘭	鯨、其他	四、二〇〇	一、二八千磅	一九二五	副産物より産出
諾威	鯨、其他	二〇、〇〇〇	四、二三八弗	一九二四	輸出高二二七、九九〇 HL
北美合衆國	メンヘーデン、其他	三六、三六四	一、三六三弗	一九二四	輸出高
新著島	鯨、海豹	九、六八九	一、三六三弗	一九二四	多少海獸油を含む
加奈陀	各油、鯨其他	一、四六三	三、九九一圓	一九二五	
日本	鯨油、鯨其他	二六、三六八	四、三五圓	一九二四	
日太	各油、鯨其他	二、八八〇	一、六三圓		
樺太	各油、鯨其他	一、六三八			
朝鮮計	各油、鯨其他	一〇四、五九三			

水産工藝材料及加工品

水産工藝品は、主に裝身具であつて、重要な種類は、眞珠、介殼、海獸皮革、珊瑚、鯨鬚、鼈甲

等の加工製品である。

此外、海綿、魚膠、沃度等の薬用、工業材料用品も相當にあるが、何れも計上すべき統計乏しきを以て示す事出來ざるも總生産額は巨額に達するのである。

第四節 工場及従業者

水産工業は原料たる漁獲物の供給量不確定で期節の限らるゝ事、貯藏困難なれば急速に處理を要する事等の缺點あれば多くの場合生賣りを主とし製造原料を従とする。従つて其組織概ね小規模にして機械工業若しくは、化學工業と見るべきは鮮魚介の機械冷蔵、罐詰製造、肥料、餌料の製造並に魚油硬化業等である。且つ工場も期節のみ操業せらるゝ處多くして従業者も短期間備ひ多數である。

主要水産製造工場及従業者數

國名	種類	工場數	従業員	資 金	年次	備 考
加奈陀	罐詰製造業	五八八	一三、七〇〇	一三、〇二七千弗	一九二四	總生産額二六、六三七、〇〇〇弗
	採油業	二四〇	二、六三三	六、五七四		
	罐詰業	八	二二三	一、七二三		重要品種のみ
北美合衆國	肥料	四五			一九二四	メンヘーデン工場

日	本	威	諾							
寒	製	罐	冷	氷	肥	燻	製	鹽	罐	介
天	造	詰	藏	藏	料	所	所	所	詰	釘
	業	詰	庫	庫						
三九六	四、二二一	七三三	一一	四七四	一七	四六	一九三	九〇二	二〇五	一三〇
	一四〇、九七七	七、六五三								四、九六四
四、三三四										二、三五弗
	一九二五						一九三三			
	商工統計による									總生産高八、五〇九、〇〇〇弗
	者									
	農林統計による各種水産製造従業者									
	日延人員									
	商工統計の罐詰工場による平均一									

第四章 貿易

第一節 總說

水産物は、大部分食品で有り且つ、其品質の餘り長期の貯藏に耐えざる關係上、生産地附近に於て消費せらるゝもの多くして遠隔地に仕向けらるゝもの自ら局限せらるゝを以て、國際間の水産貿易

は其生産高に比し多大ではない。然して水産貿易の大宗たる食品貿易につき重要四十餘國の總貿易高は、輸入併せて大凡三百五十萬噸十六億圓内外で、更に食品以外の重要な油脂、介殼、肥料、海綿、其他を加ふれば恐らくは水産總貿易額は二十億圓近くを推定せらるゝのである。

重要な貿易國は英國、諾威、米國、加奈陀、獨逸、佛國を第一位とし西班牙、伊太利、ブラジル、日本、支那、南洋等之れに次ぐ。

然して集散仲經市場と見るべきは歐洲にあつては英國、米洲に於ては米國で、東洋は香港、南洋は新嘉坡市場である。次ぎに重要貿易國の主要品種の輸出入並關係諸國を示す。

重要貿易國輸出入状態

國名	輸 入		輸 出	
	種類	主要仕出地	種類	主要仕向先
英 國	鮮魚介類	諾、蘭、外國漁船	鮮魚類	獨、蘭、白、ラトビア
	罐詰	米、日、加	鹽藏類	獨、蘭、白、ラトビア、波
	魚油	諾、加、南阿、日	鱈製品	ブラジル、西、葡
	鯨油		鮮魚類	獨、英
			鹽藏類	獨、波蘭、米

佛領 印度支那	魚介罐詰	佛、英、米	鹽乾魚	海殖、蘭印、支那
シヤム	同	新嘉坡經由英、米	同	海殖、支那
印度	鹽乾魚	英、新嘉坡	魚肥	馬來諸州、日
比律賓島	鯨、鱈罐詰	米、西	介殼	米、日
蘭領東印度	鹽乾魚	佛領印度支那、シヤム	同	日、米、英
濠洲	魚介罐詰	米、新嘉坡、蘭	介殼	日、米、英、佛
南阿	魚介罐詰	加、米、英、諾	鯨	日、米、英、佛
	鹽乾魚	英、米、諾	鯨	英、蘭、獨

第二節 食用品

一、總貿易高

國際水産貿易の大部分を占むる食品貿易は、最近に於て輸出入併せて約三百五十萬噸十六億圓で之れを戦前の總貿易高の約三百六十萬噸八億圓に比すれば、數量は多少減少を示せるも、價額は略二倍に増加して居る。

國際水産食品總貿易

國名	輸入		輸出		總額	換算價	年次備考
	噸數	價額	噸數	價額			
英國	二三五,四四七	一〇,七六八	三四三,八六五	七,五三三	一八三,〇一〇	一九三五	
佛國	九九,〇〇〇	一六三,九三〇	三〇,四五〇	五四,二八九	—	二二八,二一九	一九二〇
伊太	八六,四一七	五二〇,三〇九	?	—	五〇,三〇九	一九三、九一七	一九三四
諾威	?	—	二九七,八六八	一九四,五一七	一九四,五一七	—	一九二五
瑞典	四〇,五二四	一五,九〇〇	五七,七四〇	一六,三三八	三三,二三八	—	一九二六
冰島	—	—	六七,七六八	五八,六五〇	五八,六五〇	—	一九二四
丁抹	?	九,〇〇〇	四三,二〇〇	三三,〇〇〇	四〇,〇〇〇	—	一九二五
露國	八〇,三七〇	一〇,一八七	—	—	一〇,一八七	—	一九二五
獨逸	三〇六,〇〇〇	一三八,〇〇〇	二四,〇〇〇	一三,〇〇〇	一四一,〇〇〇	マーク	一九二五
和蘭	二四,八三三	—	一六三,一八七	三〇,四八二	三〇,四八二	フロリン	一九二四
白班	八三一,一五五	三三,二八八	—	三,五八九	三六,八七七	法	一九一九
西牙	七三,〇〇〇	八〇,〇〇〇	一三,〇〇〇	一三,〇〇〇	九三,〇〇〇	ベセタ	一九二五
葡牙	四〇,〇八一	三三,二四八	五六,八四〇	二九,六二二	四六,二〇四	エスカド	一九二五
希臘	—	一九三五	—	四	—	—	一九二七
羅馬	一三,三四三	一九三,七〇四	五九	二,七三六	二一五,四四〇	レイ	一九二三
新著	—	—	七三,七七〇	一一,一九三	一一,一九三	弗	一九二四
加奈	一〇,五〇〇	二,五二六	二一七,〇三三	三三,二三八	三五,七五四	—	一九二四

(3) 需 要 國

として有力なるは米國、獨逸、佛國、伊太利、西班牙、葡萄牙、ブラジル、西印度諸國、支那、蘭領東印度、濠洲聯邦等である。

三、重要類別

水産食品を鮮魚介。罐詰類及調理魚介藻類と大別して國際移動高（重要供給國の輸出高の合計）を見れば最近に於ては大凡

鮮 魚 介	三〇〇、〇〇〇
罐 詰 類	二五〇、〇〇〇
調理魚介類	一、一〇〇、〇〇〇
食用海藻類	五〇、〇〇〇
計	一、七〇〇、〇〇〇

である。之れを戦前に比較すれば罐詰の數量に於て著しく増加を來せる外は、何れも減少し、結局總噸數に於て約十萬噸の減少を示して居る。勿論價額は何れも増加し總額に於て戦前に二倍して居るは前表に示す通りである。

(1) 鮮 魚 介

鮮魚介の國際貿易は、迅速に輸送する必要上、各大陸に於て隣接國間に主として行はるゝのみなれば、國際移動高は多大ではない。最近に於ける移動高は三十餘萬噸で大戰前の四十萬噸に比すれば、約二割の減少である。

而して、其八割迄は歐洲各國間、二割内外は、加奈陀米國間に行はれて、東洋に於ては極めて少數であるが、朝鮮より日本への移動は多大である。又種類別にすれば練第一にして約五割を占め、之れに次ぐものは、鰈鮮、鮭鱒、鯖、牡蠣、ロブスターである、重要なる供給國は歐洲にありては、英國、ノ威、丁抹、和蘭、佛國、北米にありては加奈陀、新著島であり、主要なる需要國は、獨逸、バルチック沿海諸國、佛國、白耳義、北米合衆國等である。但し牡蠣のみは例外で、佛國及北米合衆國は重要なる供給國側に立つて居る。

鮮魚介移動高

國 名	噸 數	價 額	年 次	備 考
英 國	四九、八九四	一一、三〇〇 <small>千円</small>	一九二四	練三六、〇〇〇噸
諾 威	八八、五九一	〃	〃	練八一、〇〇〇噸
瑞 典	六、七九七	〃	一九一九	
和 蘭	一一、〇三六	〃	一九二四	練のみ

計	支那	朝鮮	日本	北米合衆	加奈陀	新著島	佛國	氷島	丁抹
三二、六九九	一、二二六	一、七三五	二、三九〇	六、一三二	六三、一〇〇	一、〇六九	三八、七四〇	四三、〇〇〇	
	一九六	五二〇	九九七	三、〇一〇	一九、四四八	二四八	一、七六八	一九二五	鯨、鯨、鯨
		一九二四	一九二五				一九二四	一九二四	鯨
		六萬六千噸一千萬圓	支那	各種	各種	各種	各種	各種	各種
			日本への移出高は	各種	各種	各種	各種	各種	各種
			六萬六千噸一千萬圓	各種	各種	各種	各種	各種	各種

(2) 調理魚介類

水産食品の大部分を占むる鹽藏、乾製、燻製其他の魚介調理品の國際移動高は最近百十萬噸で戰前百二十萬噸に比すれば一割内外の減少である。重要なる種類は、鯨、鱈の製品で殆んど總量の八割に當り、之れに次ぐは、鯖、鮭、鰯、其他の鹽藏品である。

然して供給國として重要地位にあるは、英國、諾威、和蘭、氷島、新著島、加奈陀、日本、佛領印度支那、シヤム等で需要地として有力なるは獨逸、バルチツク沿海諸國、佛國、西班牙、葡萄牙、北米合衆國、支那、瓜哇、ブラジル等である。

調理魚介移動高

國名	噸數	價額	年次	備考
英國	三五七、〇八一	六、九九四千磅	一九二四	價額は鮮魚を含む
諾威	一九六、一六六	一八五、八〇三	一九一九	
瑞典	六、七九七	〃	一九二四	鮮魚を含む
獨逸	二八、〇〇〇	一四、〇〇〇	一九二五	鮮魚を含む
丁抹	二一〇	クローネ	一九二四	鮮魚を含む
氷島	六七、七三三	五五、三八〇	一九二四	鮮魚を含む
和蘭	七四、一三〇	フローリン	〃	鮮魚を含む
佛國	二六、九四五	フラン	〃	鮮魚を含む
西班牙	一一、〇〇〇	ペセタ	〃	鮮魚を含む
葡萄牙	六、一六四	エスカド	〃	鮮魚を含む
新著島	六七、五四八	〃	〃	鮮魚を含む
加奈陀	一〇八、三四五	〃	〃	鮮魚を含む
日本	一一、一九五	三、九四四	一九二五	鮮魚を含む
朝鮮	二九、七六二	一八、〇六九圓	一九二四	鮮魚を含む
支那	一、〇〇〇	一、四七四	一九二五	鮮魚を含む
臺灣	一三、〇九四	五、〇七三	一九二五	日本へ移出を含まず

國名	噸數	年次	備考
獨逸	二五,〇〇〇	一九二四	英國の輸出高のみ
ロシヤ	四〇,九八七	"	同上
ラトヴィヤ	三八,五七七	"	同上
波蘭	五五,一六一	"	英(五一、二七一噸)諸(三、八九〇噸)の輸出高
白耳	一六,五三八	"	英(九、一二〇噸)蘭(七、四〇八噸)の輸出高
佛國	一七,五二一	"	諸威の輸出高のみ
瑞典	一五,九七四	"	
伊太利	五,二〇八	一九三三	
ルーマニア	八,一六三	一九二四	英(一〇、〇五六噸)諸(二、二四八噸)蘭(一、八三三噸)の輸出高
米國	一五,六〇一	"	加奈陀の香港、支那への輸出高
支那	四,四六九	"	加奈陀の輸出高、大部分は朝鮮、臺灣、支那へ再輸出
日本	一五,八八四	"	加奈陀の輸出高燻製多し
西印度	一、六八九	"	
計	五三,四七三		

鱈

鱈類製品は鯨に次ぐ重要貿易品で國際移動高は、約二十七八萬噸で戦前に於て約二十八萬噸(七千萬圓内外)と大差ない。主なる種類は鹽乾及鹽藏品で、約九割を占め棒鱈、「ストック、フヒツシユ」の如

き素乾品は一割内外で、燻製品はあるも極めて少數である。又大部分は眞鱈を原料とし鱈類の製品は小部分である。重要な供給國は諾威、新著島、氷島を第一位とし英國、加奈陀、佛國、(北海及新著島附近のサンペールの出漁漁獲製品)米國及日本等之に次ぐ。最近顯著なる發達は氷島である。又需要地は伊太利、西班牙、葡萄牙、佛國等の南歐羅典國と、ブラジル、玖馬、西印度諸島等の其民族の移住地とで殆ど全部消費して居る。

而して素乾品である棒鱈は支那に、「ストック、フイツシユ」は伊太利、亞弗利加諸國に於て嗜食せられ又南米、西印度諸島其他暖國に於ては保存上強く乾燥せられた鹽乾鱈が歓迎せらるゝので有る。

鱈移動高 (眞鱈其他鱈類共)

國名	種類	噸數	價額	年次	重要輸出先
英國	各	二〇,五〇〇	九五七磅	一九二四	ブラジル二八%、西二二%、葡一八%
諾威	ストック	三四,九三五		"	アルゼンチン 濠洲各五%
氷島	ストック	四五,一五五		"	伊四八%、西阿三〇%、西三三%、葡二五%
佛國	ストック	四〇,八五〇	四一、六六クローネ	"	伊五%
	ストック	一三,七六八	八三六四	"	伊、亞弗利加
	ストック	二二		"	西、葡
	ストック	二五,四〇〇		"	伊四五%、希二二%、西一一%
	ストック			"	アルゼリア五%

計	北米合衆國		日本	
	鹽水漬	鹽藏燻製	鹽藏	燻製
	二,四三八	八三二	a	b
	二,五九六	七六六	一五,一九	三,三三六
	一九二四	"	六三八	三,二四一
	歐洲	鹽藏は東洋、燻製は西印度支那、香港	"	"

(註) 日本の(a)は内地各港より(b)は臺灣よりの輸出高

鯖

鯖は大部分鹽水漬として需要されて居る。其國際移動高は精々一萬噸位であつて、餘り増加を期待するは困難である。主要供給國は英國、諾威、瑞典、加奈陀等で需要地は北米合衆國を第一位する、即ち次の如し。

鹽藏鯖國際移動高

國名	噸數	價額	年次	輸	出	先
英國	一,一〇〇	千	一九二五			
諾威	二,四〇七		"			
加奈陀	四,三三〇	五三七弗	一九二四	米四六%	西印度四一%	
計	七,七七七					

(3) 魚介罐詰類
一九二五年の米國輸入高は六千噸、二百餘萬圓で、殆んど國際移動高の約八割に概當して居る。

魚介罐詰は、水産食品として長期の貯藏に耐え、且つ大量生産なれば販路は頗る廣大であるが、種類並生産地は比較的限られて居る。最近に於ける國際移動高は、約二十五萬噸、二億圓に近く、戦前に比し數量四割、價額十五割の増率である。主なる種類は「サーデイン」鰯、蟹等で重要な供給國は諾威、葡萄牙、西班牙、北米合衆國、加奈陀、日本等である。又消費地としては英國、佛國、北米合衆國を第一位とする。

魚介罐詰移動高

國名	噸數	價額	換算圓價	年次	備	考
英國	六六七三	三三二千磅	三,三三〇	一九二四		
諾威	四〇,二七五	八三,一三五クローネ	四四,八九三	"		
佛國	一〇,七〇六		一〇,〇〇〇	"	價額は推定	
西班牙	二〇,二九一		七,八一七	一九一九		
葡萄牙	五〇,四三〇	二二六,六四ツツ、カ	四七,〇一六	一九二四		
南阿聯邦	一九五〇	二三五磅	二,三五〇	一九二五		
新著島	八五〇	九九弗	九九〇	一九二四		

計	加 奈 陀		北 米 合 衆 國	日 本	日 本
	A	B			
二四七、三六四	二八三四	一三八三七	三	一〇、五六二	一九二四
	一、五五六	一、五五六	三	一九二四	一九二五
	一九、七三九	一九、七三九	三	一九二四	一九二五
				英國輸入高	

附記 日本のAは内地より、Bは堪察加よりの輸出にて後者は英國の輸入高と算り出す

鮭 鱒 罐 詰

鮭鱒罐詰の國際移動高は八萬五千五百萬圓で、戦前の五萬五千噸(約二百五十萬箱)二千五百萬圓に比すれば、著しき増加である。然して歐洲大戰中は軍需品として從來輕視せられた「ピンク」「チャム」の如き種類も多數賣行きをみたので一九一九年に於ては國際移動高は十萬噸、一億圓といふ記録を示して居る。

需給關係につきて云へば、供給國は殆ど加奈陀、北米合衆國及日本(露領勘察加産)の三ヶ國に限らるゝも、需要方面は其範圍頗る廣大で、販路の大なる點に於ては水産食品中第一位で有る。就中歐洲は最大顧客で、常に國際移動高の七八割を消費して居る。殊に英國は重要な需要市場である。之れに次ぐは濠洲聯邦、比律賓諸島、海峽植民地、新西蘭、智利墨西哥等である。乍然優良品種たる、紅鮭、銀鮭の需

要は「アングクロサソン」民族に殆ど限らるゝものゝ如く英國、濠洲を重要な市場とする。之れに反して南洋諸島、南米各國は主として安價なる「ピンク」を歓迎するのである。

鮭 鱒 罐 詰 移 動 高

國 名	噸 數	價 額	年 次	重 要 輸 出 先
加 奈 陀	三五、三三〇	二〇、八五〇 <small>千円</small>	一九二四	
米 國	三〇、四六〇	一九、三三四	"	
日 本	一一、〇〇〇	一四、三〇九	"	英國への輸出高
計	七七、七九〇	五四、四九三		

鮭 鱒 罐 詰 重 要 概 數 (單位一封度罐四打詰箱)

國 名	箱 數	備 考	
		九	二 五 年
英 國	一、三五、八〇〇		
佛 國	三六三、三二一		
伊 太 利	一〇三、六四九		
獨 逸	三、七九九		
希 臘	一九、二七三		
		歐洲一、九二四、四二九 (二二・六四%)	

和蘭	六五、〇三九	
其他	三五、六五八	
北米合衆國	四、九七〇、〇九五	北米五、四四五、六七六 (六四・〇六%)
加奈陀	三五、四〇一	
墨西哥	五九、一〇九	
中美米	一八、三四〇	
其馬	九、一二二	
玖馬	三五、六一九	
其他	三、二八五	
アルゼンチン	四九、六三三	
智利	一一、四五一	南米一二八、〇五四 (一・四五%)
秘露	一五、九〇三	
コロンビア	四七、七八二	
其他	一七、四七五	
印度	二七、〇九七	
海峽植民地	一三、七二四	亞細亞三一八、六〇八 (三・七四%)
蘭領東印度	二五、八二〇	
日本	五、五〇二	
日他	三五、二八五	
其洲		

新西蘭	五七、二〇七	
比律賓諸島	一五、九九五	大洋州五七六、〇三三 (六・七七%)
フイジ島	一九、五三七	
其他	五、〇五九	
南阿	六三、九三三	
埃及	五、三三五	阿弗利加一〇一、三三六 (一・一九%)
其他	三三、〇五八	
計	八、四九四、一三六	

附記 本表は北米合衆國(一九二五年)加奈陀(一九二五年度)及日本(一九二五年)の輸出統計を綜合し、四十八封度を一箱として換算した各國への輸入箱數で、實際の需要箱數とは多少の差異あるは免れなき次第である。又生産國たる北米合衆國、加奈陀及日本の消費箱數は、一九二五年の生産箱數より其輸出數を除きたる箱數であるので、在庫品を考慮する必要がある。

「サーデイン」罐詰

鮭鱈罐詰に次ぐ重要な罐詰は鰹、「ブリスリング」及小鯨の油罐詰即ち廣義に解する「サーデイン」罐詰である。其國際移動高は約十萬噸、主なる供給國は諾威、葡萄牙、西班牙、佛國及米國、需要地は英國、北米合衆國、佛國とし濠洲、加奈陀、獨逸並に南米、南洋諸國である。

「サーデイン」罐詰移動高

國名	噸數	價額	年次	備	考
佛國	五,三一九		一九三四	獨(一九%)英(一七%)米(一一%)白(六%)丁(五%)蘭(五%)	
葡萄牙	四九,五六七	四五,一九九	"		
西班牙	二〇,三九一		一九一九		
諾威	一九,八八九		一九三五		
計	九五,〇六六				

然して重要國輸入高を示せば左の如し。

國名	噸數	價額	年次	備	考
佛國	一六,七五六		一九二四	諸威の輸出高 同上	
英國	一〇,〇〇〇	九,三二三	"		
米國	一三,三三一	八,九八〇	"		
加奈陀	一,五五〇	一,〇五六	"		
濠洲	五,〇七二		"		
南阿聯邦	一,四八〇		"		
計					

鯧罐詰

油漬罐詰を除く鯧、鯧罐詰は主として鯧トマト漬及「キツバード」鯧である。最近著しく發達した種類で鯧は、米國を鯧は諾威、英國、加奈陀を主産地とする。日本に於ても長崎にて鯧、トマト漬罐詰勃興し南洋の輸出の端緒を開いた。主なる需要地は南洋、南米、中米、英國、濠洲南阿及英領西印度諸島である。殊に米國産鯧トマト漬罐詰の南洋、南米方面の需要は近時著しく増加を示して居る。

國際移動高

國名	種類	噸數	價額	年次	備	考
諾威	鯧 リング	四,三五四	二,九一〇	一九二五	キツバード鯧	
英國	鯧	六,二九六		"	トマトソース漬で小鯧を含む	
米國	鯧	二八,五三五	一〇,六〇三	"	濠洲、南阿、其他英領(七五%) 多少サーデンを含む	
加奈陀	鯧	一,二七四	四九四	一九二四		
計		四三,六四九	三九〇	一五〇		

米國鯧罐詰、主要輸出國別

國名	一九二四年	一九二五年	備	考
比律賓諸島	噸數 七,〇〇七 價額 一,二一〇	噸數 五,七六〇		

海峽植民地	アルゼンチン	瓜哇	印度	加奈陀	墨西哥	歐洲
四八二六	一八七六	一四一五	五四五	一三八五	一三三七	一三五七
八〇五	三五二	二五四	二二五	二九一	二六三	一五六
五、五九八	一、七七九	一、七〇三	一、二九五	一、二二三	一、一〇六	一、三二二
						英國、白耳義を主とす

「ロブスター」「タラバ蟹」及「クレイフィッシュ」罐詰

魚介罐詰で最も賞味せられ然かも高價なるものは北米産の「ロブスター」罐詰、日本産の「タラバ蟹」及南阿の「クレイ」、フィッシュ「罐詰」である。國際移動高は三者併せて五十萬箱、二千萬圓で大戰前の約三十萬箱、九百萬圓に比すれば多大なる増加である。主要供給國は前記三ヶ國で需要地は北米合衆國、英國及佛國等である。而して「ロブスター」罐詰の供給力は全く行き詰つて居るも日本の「タラバ蟹」及南阿の「クレイ」、フィッシュ」の罐詰は最近非常なる發展を示して居る。

移動高

國名	種類	箱數	價額	年次	重要輸出入
----	----	----	----	----	-------

加奈陀	ロブスター	一〇七、八八四	五、六四〇 <small>千圓</small>	一九二四	英(五三%)米(二八%)佛(八%)
新著島	ロブスター	三、八一五	一九八	〃	英(五〇%)米(五〇%)
日本	タラバ蟹	二七、六二八	一〇、〇五九	一九三五	米(六五%)英(二五%)濠(三%)
南阿聯邦	クレイフィッシュ	八九、三六〇	二、三五〇	一九三五	佛(七二%)英(一四%)白(六%)米(四%)
計		四一〇、六九七	一八、二四七		

附記 加奈陀及南阿聯邦は四八封度を一箱と換算す。

次に重要な需要國たる米國の一九二五年に於ける輸入を示せば次の如し。

品種	噸數	價額	備
蟹	三、七六七	二、八一八 <small>千圓</small>	殆全部日本品但し多少罐詰以外のものを含む
ロブスター	六三八	八一九	加奈陀(九五%)

(4) 食用海藻

海藻類を食用に供するは殆ど東洋に限らるゝので、其貿易も主として東洋諸國間に行はれて居る。即ち日本及西伯利に産する昆布類が重要種類で其他南洋各地に産する「アガール」、アガール」が有るも極めて少數である。主要需要國は殆ど支那のみである。此外海藻製品として、特殊なるものは日本特産品たる寒天である。而して此等の國際移動高は各種併せて四萬噸内外一千萬圓位であるが、其原料生

産不足の爲將來の發展は多大なる期待困難であらう。

國際移動高

品 種	國 名	一九二四年		重 要 輸 出 先
		噸 數	價 額	
昆 布	日 本	二七,七九八	三,九〇〇 <small>千円</small>	支那の輸入高
	朝 鮮	六二	一四一	
アガ 天	南 洋	二九,〇九九	四,〇四一	支那輸入高
	日 本	一,〇〇〇	二五七	
アガ 天	計	一一,〇九四	四,五四三	支那香港(二五%)南洋(一六%)米(二〇%)歐洲(三三%)

にして一九二四年に支那へ輸入せる昆布其他海藻(寒天を含まず)は三三、五五〇噸、四百三十萬圓である。

第三節 工用品其他

食用品以外の水産貿易品は、魚油、介殻、珊瑚、海綿の如き工業、工藝用に供せらるゝもの及魚肥料、魚糧等て重要貿易國は英國、佛國、諾威、伊太利、北米合衆國及日本である。主要種類は魚油、介殻、肥料、飼料を大宗とする。

國 名	輸 入		輸 出		合 計		備 考
	噸 數	價 額	噸 數	價 額	噸 數	價 額	
英 國	五六,五九六	千円 一三,五〇〇	—	千円 四八,七九九	七〇,〇九六	千円 一〇,九一六	一九二五年
諾 威	?	—	—	—	—	—	一九二四年
佛 國	一七,一六九	—	—	—	一七,一六九	—	一九二四年
米 國	—	—	—	—	—	—	一九二五年
日 本	二五,七六〇	六,七九三	—	—	—	—	一九二五年

(1) 海産動物油

海産動物油の主要なる種類は鯨油、鱈、鯨、鯨油等て其國際移動高は、約十一、二萬噸て其内鯨油が五割、鱈油二割、殘三割が鯨、鯨、其他といふ次第である。

重要供給國は諾威、日本、南阿聯邦、加奈陀及新著島て需用國としては獨逸、英國、北米合衆國、白耳義、和蘭、佛國、伊太利、濠洲等て有る。

海産動物油脂國産移動高

國 名	品 種	噸 數	價 額	年 次	重 要 輸 出 先
—	鯨 油	三,八六〇	千 磅	一九二五	—

(2) 介殼	南日米	新	加	諾	英
	計	本國	島	威	國
	阿	海	鯨	魚	魚
	各	鱈	其	鱈	鱈
	各	鱈	海	魚	魚
	種	油	豹	肝	肝
	油	油	油	油	油
	油	油	油	油	油
	油	油	油	油	油
	油	油	油	油	油
二四、一九八	一四、九四〇	三、二〇八	六、一七二	二、五	七、三二五
七、二四三	三五四	六、一七二	二、五	一〇、一四三	二、三三七
四、一七〇	一三〇	八、九〇〇	七、六	八〇、一五四	八〇、一五四
二六四磅	四、一七〇	三、九七〇	七、六	四、一七〇	四、一七〇
一九二四	一九二五	一九二四	一九二五	一九二四	一九二五
英、蘭、獨	米、英、蘭、獨	米、英	米、英	米、英、獨、佛	米、英、獨、佛

國際貿易品として、介殼の重要種類は蝶介、高瀬貝である。其主産地は南太平洋諸島、印度洋、彼斯灣及紅海沿岸各地並に西印度諸島ベネジュラ沿岸等であつて、重要需用國は英國、佛國、米國及日本等である。其國際移動高は大凡二萬噸内外二千萬圓見當であらう。

用途は大部分は介殼の原料で、釘工業の盛大なるは獨逸、佛國、米國及日本である。

一九二二年に於て米國ミシシッピー河流域及大湖地方の介殼製造高は二千八百萬圓、一千七百萬圓（未成品共）で日本は盛期には五百萬圓ありしが最近は二百萬圓である。

重要生産國輸出高

濠洲	蝶介	一、三六八	二、三〇千磅	二、二〇〇千円	一九二二	産額
ニューカレドニヤ	高瀬貝	一、二七五	七三〇	七三〇	一九二四	
蘭領東印度	蝶介	五〇〇	一	一	最近	直接佛本國へ輸出高
比律賓諸島	高瀬介	四〇三	六三六盾	五〇九	一九二二	
英領マレー半島	高瀬介	一、三九七	六八四〃	五四七	一九二四	
	其他	一	三五二ペソ	三五三	一九二四	
	其他	七六三	二五四弗	二八九	一九二三	

重要需要國輸入高

國名	品種	噸數	價額	換算價	年次	備考
英國	蝶介	二,四〇〇	千	千円	一九三五	
	其他					
米國	蝶介	二,四九二	一,七〇八	三,四一六	一九三五	
	其他	六二六	二二〇	四四〇	"	
日本	高瀬介	八,五九五		三,五六五	一九二五	
	其他					

(3) 海綿

海綿の主要産地は、地中海の東部、希臘の近海並に北米「フロリダ」海峽沿岸各地即ちバハマ島、玖馬及「フロリダ」半島である。其生産額は約二千噸、八百萬圓と推定せらる即ち次の如し。

地名	噸數	價額	年次	備考
地中海	?	四,〇〇〇	推定	
フロリダ	三〇〇	一,六六二	一九三三	
バハマ島	五〇〇	一,二二二	一九三〇	

玖馬	其他	計
一〇〇	?	約二,〇〇〇
六四八	二〇〇	七,六四四
"		數量は推定

Marine products of Commerce. by Donald. K. Tressler. に據る。

然して重要需要國は、佛國、英國、白耳義、獨逸、米國、で清拭用として印刷、外科、浴用其他各方面に用ひられて居る、一九二四年米國に輸入高は四百噸、八千萬圓であつた。

(4) 肥料及飼料

魚肥料として重要な貿易品は「フィッシュグアノ」(魚糞)と乾魚であつて、飼料としては「フィッシュユ、ミール」(魚糧)である。歐米に於ては魚糞の生産は減じて魚糧の製造に轉じつゝある次第である、重要供給國は歐米に於ては諾威、米國、亞細亞にあつては印度で、需要地は前者では獨逸、後者に對しては錫蘭及馬來半島である。日本の如き魚肥料の多産國にして猶年額二萬噸内外二、三百萬圓の輸入を英國、諾威、米國及印度より仰ぎて居る。

國名	品種	噸數	價額	換算價	年次	備考
諾威	魚糧	四二,四五二	千クローネ	千円	一九二六	
	魚肥料	?	五,三〇六	二七,七〇五	一九三六	
米國	魚肥料	一三,七六一		二,二七二	一九三五	日本の輸入高
	魚肥料					

次に最近に於ける重要需要國たる獨逸、日本の輸入高を示せば左の如くである。

國名	一九二四年		一九二五年		備考
	噸數	價額	噸數	價額	
獨逸	二六,九三	千円	四五,七六	千円	魚糧
日本	一五,三四	二,一九	一七,二九	二,七三	魚肥料

第四章 消費

第一節 總說

水産物は大部分食用に供せられ然かも漁獲の儘にては長期の貯藏に耐ゆる事困難なると、加工方法の未だ充分ならざる點あるを以て生産國に於て多く消費せらる。従つて消費量は島嶼國は大陸國より多く北米諸國は南半球各國に比して優れて居る。

乍然、種類別に見れば國土、民族により其嗜好を著しく異にして生産地必しも重要需要地と稱し難き事由が存する。例へば鯨は英國、諾威に於て多獲せらるゝも、獨逸及バルチック海沿岸諸國に於て大部分消費せられ、鱈類は諾威、新著島の如き北寒國を主産地とするも、専ら暖國たる羅典經統の諸國に於て需要せられて居る。

又鮭、鱈罐詰の生産は北太平洋に限らるゝも、紅鮭罐詰は英國、濠洲等の「アングロ、サクソン」民族に、「ピンク」「チャム」罐詰は南洋南米各地に歡迎せらるゝ有様である。殊に歐米人と東洋人との魚介類に對する嗜好の差別甚だしく、歐米人に賞美せらるゝ鯨、鱈、鱈の如きは東洋近海に多産するも、一般に輕規せられ、又日本人の鯛、鮪、鰹、鰻を珍重するに反して歐米人の大鮭、舌鮭、鱈類を喜ぶは周知の事である。殊に日本支那に於て柔魚、章魚、海鼠等を食膳に上すが如きは歐米人の意外とする處である。然れども魚介類の食用としての需用は、漸次各國共に其範圍を廣め、就中大戰中食料不足によりて、歐米に於ては從來全く食用に供せざりし鯨肉、鮫肉の如きも一時食用に供した實例が有る。

第二節 食用消費

一、重要國別

水産物の重要食用消費國は日本、米國、英國、獨逸、露國及佛國にして統計は判明せざるも、支那の消費量は多大にして百萬噸以上と推定せらるゝのである。

魚類食用消費量

國名	漁獲噸數	食用噸數	輸入噸數	輸出噸數	食用消費噸數	人口	一人一年消費高	年次
英國	千噸 一,〇六六	千噸 一,〇六六	千噸 二二三	千噸 四一三	千噸 八六六	千人 四四,〇〇〇	キロ 二〇	一九二四

日	加	米	佛	獨	ロ
本	奈	國	國	逸	シ
二、〇五三	一、三三〇	九〇〇	二二八	二二八	三六〇
一、三三八	九〇〇	二二八	二二八	二九四	三六〇
				二九四	五〇
					六
一、三三八	六八	七三三	一七一	四八四	四一〇
六〇、〇〇〇	八、五〇〇	一〇、五〇〇	三九、〇〇〇	六〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
	七一九	七	四五	八	四
三三	一九三三	最近	"	"	一九三四
一九二五					

附記 英國、獨逸は單に漁獲高に輸出入高を加減して、消費量と定めた、鹹水産魚類のみ、又佛國、加奈陀も計算基礎發表なきも、英國の例と同じものと思はる。米國は水産局の計算で食用部分を、計出して消費量と定む、日本は内地魚類の總漁獲高より同年肥料製造高一八三、七六二噸の還元量、七三五、〇四八噸を差引きたる量。

二、大都市別

各國を通じて都邑別の消費量を見るに、都會多くして地方少きは勿論であるが、鮮魚介は都會に需要多く、鹽乾魚は地方消費多き傾向は明らかに示されて居る。即ち、重要都市の魚市場に取扱はる、數量より每人一ヶ年の消費量を計算するは何れも、其國の平均消費量より多大なるは、次表によりて判明せらるゝのである。

重要魚市場扱高

市場名	所在都市	入荷噸數	都市人口	每人一ヶ年消費量	年次	備考
-----	------	------	------	----------	----	----

ピリングスゲート市場	倫敦	一八四、六四四	七、五〇〇、〇〇〇人	二四・六	一九二三	
アレキサンデルスバツファ中央市場	伯林	三三、〇〇〇	三、八〇〇、〇〇〇	八四	一九二二	
漢堡魚市場	漢堡	一一、二四六	九三〇、〇〇〇	一二・一	一九二一	
巴里中央市場	巴里	五四、二五二	二、九〇〇、〇〇〇	一八七	一九二三	
フルトン魚市場	紐育	一七九、〇〇〇	八、五〇〇、〇〇〇	二一〇	一九二四	
東京市魚市場	東京	一八六、五七四	三、〇〇〇、〇〇〇	五〇三	一九二五	米國水産局の調査によれば、一四キロ五、六四一噸を差引計算す

歐米卸賣市場概覽(東京市)及東京市魚市場年報に據る。

第三節 其他

水産物で食用以外に多量消費せらるゝものは魚肥料、海産動物油及介殼等である。

一、魚肥料

魚肥料を、最も多量に消費する國は何れも生産國である。即ち日本約三十萬噸、北米合衆國十萬噸内外を消費するものと、推定せらるるのである。之れに次ぐは加奈陀、英領印度、錫蘭、馬來半島等で多くも二、三萬噸、少きも一萬噸内外を消費して居る。

二、海産動物油

魚油、鯨油の用途は主に工業用で、硬化油、製鋼用、塗料、鞣革用等は主要なるものである。従つて、重要消費國は戦前に於ては獨逸、英國を第一とし、白耳義、北米合衆國之れに次ぐ順序であつたが、最近は歐洲の需要著しく減退して、北米合衆國の需要は激増を示して居る。即ち重要消費は英米兩國にして略世界生産高の半數を消費して居る。

國名	生産噸數	輸入噸數	輸出噸數	消費噸數	年次	備考
米國	五三、一四八	五、〇一九	二七九	五七、八八八	一九三五	
英國	四、二六〇	五四、一〇〇	一三、五〇〇	四四、八六〇	一九三五	生産高は單に蘇格蘭のみ

第五章 經濟

第一節 資金

一、漁業資金

廣義に解する漁業資金、即ち漁業權の評價、漁船漁具價、水陸及運搬設備費等の有形無形の固定資本より漁夫、船夫の給料、賄料、餌料、燃料、其他消費費等の流動資本は、到底判明せざるも漁船、漁具價及水陸設備費につき、重要水産國の投資額を示せば、次の如くである。

國名	漁船價	漁具價	其他	計	年次	備考
諾威	一一三、二九二	五六、〇八九	—	一六九、三八一 <small>千</small> クローネ	一九二二	
蘇格蘭	?	?	—	四、九二二磅	一九二五	
米國太平洋沿岸	八、九〇三	二、六三四	一五、六〇一	二七、一三六弗	一九三二	小屋、埠頭、冷藏庫、貯氷庫等を含む
加洲	一一八、四五	八、七九五	三、二一〇	二三、八五三弗	一九三四	
朝鮮	一一、二五九	一〇、八一七	—	二一、九五六圓	一九一九	

二、製造資金

漁業と製造業とは多くの場合、密接なる關係を有するので此間の區別は確然せざる點あるも、判明せる二、三の例を示さう。

國名	工場數	工場設備資金	流動資金	合計	年次	備考
諾威	二八九八	六三、二三八	—	六三、二八 <small>千</small> クローネ	一九三二	
加洲	八三六	一一、六四〇	八、六六五	二〇、三〇四弗	一九三四	流動資金を含む

(註) 加洲は罐詰製造、採油工場のみにして諾威は製氷冷藏工場も含む。

第二節 投資と生産

漁業資金と漁獲價、水産資金と生産價につき、最近の統計によりて其比率を見るに、次の如き結果

を得らるゝ。

一、漁業資金と總漁獲價

國名	漁船 漁具價	其他漁業 設備費	計	漁獲高	比率	年次	備考
諾威	一六九,三九一		一六九,三九一	一〇三,三〇二	六〇	一九二二	
蘇格蘭	四,九三二		四,九三二	四,五五四	九三	一九二五	
米國太平洋沿海	一一,五六六	一五,六〇二	二七,一六八	一一,九八三	四八	一九三三	
三州	二〇,六四三	三,二一〇	二三,八五三	二七,三六五	一一五	一九三四	
加奈陀	二〇,六四三		二〇,六四三	四三,八四四	一五四	一九一九	
朝鮮	二二,九五六		二二,九五六				

(註) 流動資金を除く。

二、水産資金と總生産價

國名	漁業資金	加工資金	計	總生産價	比率	年次	備考
加奈陀	二三八,五三	二〇,三〇四	四四,一五六	四四,五三四	一〇一	一九三四	
アラスカ	?	?	六三,六六〇	四〇,三八九	六四	"	

(註) 流動資金を含む

三、製造資金と利益

一九二四年に於ける加奈陀の水産工業につき、同國の水産統計の示すべき處に従へば次の如し。

資本金 (單位千弗)

項目	罐詰工場	其他食品工場	採油工場	計	備考
工場數	五八八	二四〇	八	八三六	
土地建物機械費	六,三六〇	三,七四四	一,五三四	一一,六四〇	
据附其他設備費	三,五三七	一,二七三	一三四	四,九二六	
流動資金	二,一二六	一,五五七	五四	三,七三九	
計	一二,〇一七	六,五七四	一,七一二	二〇,三〇四	

生産費 (單位千弗)

項目	罐詰工場	其他食品工場	油脂工場	計	備考
原料費	六〇六八	五,三八三	二八	一一,四八〇	魚介類
加工賃	二,七六〇	一,二五七	二七	四,〇三四	給料、賃金
容器	三,三四〇	四六三		三,八〇一	空罐、樽、函其他
用鹽	一〇七	二九四		四〇二	
燃料	二二三	八七	八三	四〇〇	石炭、油、其他
其他	三三三	八三		四〇五	

計		生産		生産		生産	
計		生産		生産		生産	
計		生産		生産		生産	
計	一、八二九	罐詰工場	一五、三五七	其他食品工場	四、〇九八	油脂工場	五、四三三
	七、五六五	計	九、一八	計	五、七二九	計	二〇、〇〇〇
	三七	備	一六、二七五	備	九、八一七	備	六、六三八
	二〇、七三三	考		考		考	二六、六三八

利益

項目	罐詰工場	其他食品工場	油脂工場	計	備
利益	三、四四六	二、二五三	二六	五、九一六	收支差引高
益高					資金に對すを利廻り
利率	二九%	三四%	三三%	二九%	

附記 利益中より固定資本の償却、其他を差引く必要あるも、茲には之れを除去せず。

第三節 處理、加工の價值増加

漁獲物に適當なる處理を加へて、生鮮のまま市場に賣出すか、或は種々なる加工を施して製品とする場合に、其處理、加工に據る價値の増加は種類、國情等により異り、極めて複雑なる状態であつて、

到底一概に之れを示す事は困難であるが、現時水産國として、比較的漁獲物の處理、加工の中庸を得たる加奈陀の例に依れば、約五割六分の増加を示して居る。假りに、此増加率を基準として國際水産の總生産額を算出すれば、約二十八億圓となる次第である。

加奈陀處理加工價値増加率 (單位千弗)

年次	生産總價	漁獲總價	増加額	増加率	備
一九二〇	四九、二四一	三一、二六五	一七、九七六	五七・四%	
一九二一	三四、九三一	二二、一七三	一二、七五八	五二・	
一九二二	四一、九〇八	二八、三三六	一三、五七三	四八・三	
一九二三	四二、五六五	二六、四四一	一六、一二四	六〇・六	
一九二四	四四、五三四	二七、三六五	一七、一六九	六三・七	
平均	四二、六三六	二七、三三六	一五、三三〇	五六・〇	

(註) 生産總價とは、生産高と製品總價との合計である。

第四節 魚 價

魚介類の單價は、國により種類に従ひて著しき相違ありて、之れを對比する事は困難であるが、最近に於ける各種の單價は次の如し。

一、平均單價

(單位、噸價)

國名	一九一三年	最近	換算價	年次	指數	備考
	單價	單價				
英國	一九一、三三七磅	一九一、一六六磅	一九一、六〇	一九三五	一六	鹹水魚類のみ
諾威	九三、三三三クローネ	二四、〇九クローネ	一一五、六一	一九二四	三三	魚類、介類、甲殻類
獨逸	?	二五七、八二マーク	一二四、二五	"	—	鹹水魚のみ
和蘭	一一、一六フロリン	一六三、三フロリン	一九八、八五	"	一四	各種
丁抹	三〇〇、二〇クローネ	五、四七クローネ	三〇四、九四	一九二五	一八	各種
加本	?	九〇、八四弗	一八一、六八	一九二四	—	魚類のみ
日本	五七、九三圓	一一、九〇圓	一一二、九〇	一九二五	一九五	沿岸漁業に依る魚類のみ

(註) 平均單價とは、總漁獲を總漁獲噸數にて除したる單價である。

貴重魚類なる「ブレース」大部分占め、且つ漁獲量少き丁抹を除けば、重要國の平均單價は噸當り百圓臺にて日本、諾威、獨逸、和蘭の如きは百二十圓内外で有る。

然して之れを戦前に比すれば、十割内外の騰貴で物價指數と大凡合して居る。

二、重要魚單價

鯨、鱈等の如き大量生産の魚類の平均單價を見るに次の如し。

種類	國名	一九一三年	最近	換算價	年次	指數	備考
		單價	單價				
鯨	英國	七四七磅	九七〇磅	九七〇	一九三四	一三〇	愛蘭を含まず
	諾威	四六、〇〇クローネ	六八、〇クローネ	三三、三七	一九二三	一三四	
鱈	和蘭	一六、三二フロリン	二二、三九八フロリン	一七、二八	一九二四	一六九	
	日本	二五、五〇圓	三、七七圓	三、七七	一九二五	一三五	
鱈	英國	一一、六〇磅	二〇、八磅	二〇、八〇	一九二四	一七三	愛蘭を含まず
	諾威	一一、三〇クローネ	一八、五〇クローネ	九九、九〇	一九二三	一五〇	
日本	二五、九九圓	七、三三圓	七、三三	一九二五	二七		

鯨は各國共其騰貴率略三〇%で著しき大差なきも、鱈は其騰貴率に多大なる相違を示して居る。殊に日本の如きは歐洲大戰中より鱈の利用著しく進歩した結果とみて差支へはあるまい。

第七章 最近の趨勢

第一節 總說

國際水産業の大勢は前各章に記述せる如くなるが、最近の趨勢に到りては歐洲大戰に因る影響は頗る多大である。即ち水産物の重要生産地なる北歐の漁場は一時全く戦亂の巷となりて、交戦諸國の生産

激減せるに反して其の需要は却て増加を來し歐洲に於ける中立國は勿論北米、東洋の水産國は何れも其の刺戟を受け漁業製造貿易共速かに勃興して斯業發展の一時代を劃した。
 而して戦後經濟界不況の餘波は當然水産業にも及ぼし各國共多大なる打撃を蒙りたるが、最近漸く整理期を脱して戦前に復舊する情勢を見るに至つた次第で、此の間の消長は最近十餘ヶ年の各般統計に據りて明白である。

第二節 生産の増減

大戦前と最近との國際漁獲總量は大差なきも國別にして考察すれば著しき相違が示されて居る。今重要水産國の漁獲數量を見るに、歐洲交戦國は何れも開戦と同時に打撃を受けて一九一五年より一九一八年迄は戦前の三分の一となり一九一九年より漸次回復に向ひたるも、北歐中立國は之れに反して戦中は却て漁獲量を増加し戦後の不況時代に遭遇して其の量を減じ最近戦前に復歸せる有様である。
 而して北米諸國は終始餘り相違なきも東洋諸國就中日本、朝鮮は此年著しき増加を示して居る。
 次に重要魚族別に見るに大量生産たる鯧、鱈につき云へば前者は重要市場たる「バルチック」沿海諸國の戰場化に次ぎて戦後經濟界不況の爲め回復遅々たるも、鱈は其の需要地多くは中立國なれば戦時の影響は餘り蒙らず、戦後不況時代に一時衰退を來たせしも最近既に復舊を見るに至つた。只需要

筋の購買力充分ならざる爲安價なる氷島品に壓されてノ威、新著島品は其輸出一時減退を示した。

重要國漁獲指數

年次	英國	佛國	獨逸	諾威	和蘭	丁抹	新著島	加奈陀	北米 合衆國	日本	朝鮮
戰前	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
一九一四	七五	七三	五五	一一一	八六	九〇	九四	一〇〇	一〇〇	一一三	六五
一九一五	三六	四六	三三	九八	一四四	二四	八三	一〇四	一〇五	一三〇	九七
一九一六	三三	四九	三〇	九八	一四五	一五	一〇七	九七	一一四	一三六	一〇四
一九一七	三三	四九	三三	九四	一五五	一〇八	一〇七	九七	一一四	一三六	一〇四
一九一八	三六	四九	三三	九四	一五五	一〇八	一〇七	九七	一一四	一三六	一〇四
一九一九	三三	四九	三三	九四	一五五	一〇八	一〇七	九七	一一四	一三六	一〇四
一九二〇	九〇	七〇	一〇九	一一一	一〇六	一〇七	一〇七	九五	一一二	一〇六	一〇七
一九二一	七〇	七〇	一〇九	一一一	一〇六	一〇七	一〇七	九五	一一二	一〇六	一〇七
一九二二	七五	七五	一〇九	一一一	一〇六	一〇七	一〇七	九五	一一二	一〇六	一〇七
一九二三	七三	七三	一〇九	一一一	一〇六	一〇七	一〇七	九五	一一二	一〇六	一〇七
一九二四	八八	一三〇	一一三	一〇四	一〇八	一一七	一〇七	一〇八	一一三	一六三	一四九
一九二五	八二	一一〇	一一八	一〇四	一〇八	一一七	一〇七	一〇八	一一三	一六三	一四九

附記 茲に示す指數は以下各表より抽出した。但し新著島は鱈のみである。

重要國別漁獲總量

歐洲

年次	英國		諾威		和蘭		獨逸		佛國	
	噸數	指數	噸數	指數	噸數	指數	噸數	指數	噸數	指數
一九二五	九三,三七	八二	六二,一五	一〇四	一九九,三四〇	一〇七	二二〇,二九	一一八	二四三,三〇〇	一三〇
一九二四	一〇六,七九八	八八	五七,〇九五	九六	二〇〇,六五六	一〇八	二二八,〇〇〇	一二三	二四三,三〇〇	一三〇
一九二二	八七,九四三	七三	五七,〇九五	九六	一五四,五四三	八三	二二八,〇〇〇	一二三	二四三,三〇〇	一三〇
一九二一	九五,五八〇	七五	五二,五三七	九五	一五三,九六四	八二	二二八,〇〇〇	一二三	二四三,三〇〇	一三〇
一九二〇	八五,一八二	七〇	四三,七三八	七四	一五三,九六四	八二	二二八,〇〇〇	一二三	二四三,三〇〇	一三〇
一九一九	一〇九,五三九〇	九〇	四八,三八八	八九	一九八,七四三	二〇六	一九四,四七四	一〇九	二四三,三〇〇	一三〇
一九一八	八六,七〇三	七二	六五,六七〇	一一	一九八,七四三	二〇六	一九四,四七四	一〇九	二四三,三〇〇	一三〇
一九一七	四四,一三五	三六	六四,〇〇〇	一〇三	一九八,七四三	二〇六	一九四,四七四	一〇九	二四三,三〇〇	一三〇
一九一六	三九,〇八三	三三	五五,七〇九	九四	一〇三,二六五	五五	四〇,八一	三三	九八,二二	四九
一九一五	四二,二六六	三四	五八,〇二三	九八	二七三,二二五	一四五	五四,〇〇〇	三〇	九八,〇〇四	四九
一九一四	四三,九二〇	三六	五五,七四九	九四	二二二,三七五	一四四	四一,〇〇〇	三三	九三,一三一	四六
一九一三	九〇,九二七	七五	五九,五八八	一〇一	一六〇,五六八	八六	九七,六七三	五四	一四四,九五三	七三
一九一二	一,二五一,三四三	一〇〇	五八,二二九	一〇〇	二〇三,八三四	一〇〇	一八三,九〇〇	一〇〇	二二一,一三六	一〇〇
一九一一	一,二三三,七一九	一〇〇	六三,九二二	一〇〇	一七〇,〇五三	一〇〇	一七三,四七五	一〇〇	一九三,六九四	一〇〇
一九一〇	一,一九〇,七二	一〇〇	五六,一〇五	一〇〇	一九〇,〇五三	一〇〇	一七三,四七五	一〇〇	一九八,二五七	一〇〇

(註) 英國、佛國は魚類、其他は魚介類

其他

年次	加奈陀		米國		日本		朝鮮		鮮	
	噸數	指數	噸數	指數	噸數	指數	噸數	指數	噸數	指數
一九二五	四〇〇,七一九	一〇〇	七三,七三四	一〇〇	一〇八,三八〇	一〇〇	五〇六,一一三	一〇〇	一四九	一四九
一九二四	三九四,八二九	一〇〇	七三,七三四	一〇〇	一四四,五九九	一〇〇	一六六,七四八	一〇〇	一四九	一四九
一九二二	四〇〇,〇〇〇	一〇〇	七三,七三四	一〇〇	一三〇,九四三	一一三	二八,八〇八	六五	一四九	一四九
一九二一	四一三,七三二	一〇四	七三,七三四	一〇〇	一五七,三四一	一一三	三三九,四二二	九七	一四九	一四九
一九二〇	三八六,〇七五	九七	八四,四六五	一一四	一五八,九一五	一一三	三四九,九五一	一〇四	一四九	一四九
一九一九	四〇九,四九六	一〇三	七九,七四〇	一〇八	一四七,七〇七	一一二	三六二,九三五	一〇八	一四九	一四九
一九一八	四二一,七三六	一〇六	九三,四〇九	一一七	一三二,四七三	一〇六	三五八,〇四八	一〇七	一四九	一四九
一九一七	四二四,九三一	一〇七	八九,三〇九	一一二	一五四,三三三	一〇六	四〇八,三七五	一一二	一四九	一四九
一九一六	三七七,六三五	九五	八三,一五七	一一一	一七三,九五〇	一五〇	三八〇,四七七	一一三	一四九	一四九
一九一五	三四一,二二五	八四	七三,六七〇	九八	一五七,四三三	一三六	四三九,五三〇	一三〇	一四九	一四九
一九一四	四一三,六〇四	一〇四	七三,六七〇	九八	一五九,八五八	一三七	四八七,七三八	一四四	一四九	一四九
一九一三	三五三,三五三	八九	七九,五八	一〇八	一七三,八五〇	一五〇	五〇五,〇〇六	一五〇	一四九	一四九
一九一二	四三三,六九四	一〇七	八三,一五七	一一三	一八八,五二三	一六二	五〇三,六八二	一四九	一四九	一四九
一九一一	四三三,六九四	一〇七	八三,一五七	一一三	二〇五,七七四	一七七	五〇三,六八二	一四九	一四九	一四九

(註) 加奈陀は重要魚類、米國は太平洋主要漁港たる「ボストン」「グロースター」「ポトランド」の三港へ陸揚の魚類のみ。
 又日本は内地沿岸、内地沖合及汽船トロールの漁獲魚類のみ。
 朝鮮は鯨を除く總ての種類の高獲高である。

重要種別漁獲量
 鯨
 歐洲

年次	英國		諾威		和蘭		備考
	噸數	指數	噸數	指數	噸數	指數	
一九二一	五四三、二六四	一〇〇	二七九、一四五	一〇〇	六六、一三四	一〇〇	
一九二二	五六〇、八五五		二五七、八七九				
一九二三	六三〇、九五九		二八九、九三八				
一九二四	三三九、七八〇	五九	三〇一、九九五	一一〇			
一九二五	一一五、三〇六	二〇	二八二、一三七	一〇三	八三、八八五	一三五	
一九二六	一三八、六〇八	二四	三三四、三〇三	一二二	九五、三三四	一四四	
一九二七	一五八、〇五三	二七	三八三、九四五	一三九	三〇〇		
一九二八	一九、五四二	三	四三〇、一六	一五六	一五、〇五四	三	
一九二九	三八、九七六	六	四八六、一五六	一七六	一一四、三〇三	一七三	
一九三〇			三〇二、六三三	一一〇			
一九三一			二五〇、〇五八	九二			

其他

年次	加奈陀		日本		備考
	噸數	指數	噸數	指數	
一九二一			三九、三三八	一〇〇	
一九二二			三七五、七七一		
一九二三	一三五、〇六五	一〇〇	五三、四六〇		
一九二四	一〇七、五〇四	八六	六〇、一七六	一四〇	
一九二五	九六、一六〇	七七	六六三、三二九	一五四	
一九二六	八八、八八一	七	六六七、六八一	一五五	
一九二七	七五、一九六	六〇	四九三、二六八	一一五	
一九二八	一〇〇、一六三	八〇	四二九、〇〇五	一〇〇	
一九二九	七九、八七九	六四	五五七、七三三	一三〇	
一九三〇	一〇五、二九四	八三	?	?	
一九三一	八四、四三七	六七	五〇、四八七	一一六	

年次	噸數	指數	噸數	指數	噸數	指數	備考
一九二二	九四、一八五	七五	五〇四、六七四	一二七			
一九二三	九三、五三三	七四	五三、五四六	一二三			
一九二四	一〇八、〇七三	八六	六五〇、三四三	一五二			
一九二五	一三三、五一〇	九六	七一九、八二二	一六七			

(註)英國は一九二三年以後は愛蘭を含まず、日本は内地及樺太の合計である。

眞鱈洲

年次	英國		諾威		佛國		備考
	噸數	指數	噸數	指數	噸數	指數	
一九二一		一〇〇	二〇三、五五八	一〇〇	一三三、四三〇	一〇〇	
一九二二		九四	二九三、八九八	九七	一〇三、四三七	七	
一九二三		四二	二三四、三〇一	八一	一一八、七三七	四五	
一九二四		四	一九三、七二五	八二	八八、七八七	七	
一九二五	九〇、五一九		一五六、八四〇	六五	五二、五四六	四五	
一九二六	五九、八六〇	三〇	一〇三、二二五	四三	二九、〇六五	二五	
一九二七	四七、七三四	二四	九一、〇五〇	三八	三三、三三五	六	
一九二八	一一三、二六三	五七	一〇四、七三八	四三			

其他

年次	噸數	指數	噸數	指數	噸數	指數	備考
一九二〇	九八、三七六	四九	一一八、八四八	四九	五四、三六六	四七	
一九二一			一二四、六三一	五一	六六、〇一五	五七	
一九二二			一四八、九九七	六二	八三、四六〇	七三	
一九二三			一七四、八三六	七三	七五、三三〇	五	
一九二四			二三四、一八一	九七			
一九二五	一五九、六三八	八〇					
一九二六	一六七、四〇〇	八四					

年次	新著島		加奈陀		日本		備考
	噸數	指數	噸數	指數	噸數	指數	
一九二一	二四〇、〇九三	一〇〇					
一九二二	二八一、七六四	九四	八四四、七八	一〇〇	六七、九一四	一〇〇	
一九二三	二八五、九四四	八三	九三、三六六	一〇九	八四、七三〇	一二五	
一九二四	二五三、二〇四	八三	一〇九、二五三	一二九	八一、〇八三	一一九	
一九二五	二二二、一一二	一〇七	一〇三、八三一	一二三	九二、五二一	一三六	
一九二六	二八八、五四〇	一一八	一一六、八七七	一三八	六九、八四八	一〇三	
一九二七	三二八、三〇九	一三七	一一三、五〇九	一三四	六五、四九五	九六	
一九二八	三七〇、五〇四	一三七			八九、五〇六	一三三	
一九二九	三四一、二八四	一二七					

一九二〇	三六三、九六七	一三五	一〇三、一三八	一三二	九三、五三二	一三八
一九二一	二七六、八四七	一〇三	一〇三、三二二	一三三	九四、四七三	一三九
一九二二	—	—	一九、二九八	一四二	—	—
一九二三	—	—	九一、五三八	一〇八	八〇、三二二	一一八
一九二四	二三六、五二五	八八	九五、九二六	一一四	一〇四、五五〇	一五四
一九二五	二五二、七三〇	九三	一一三、二二七	一三四	九一、四八五	一三五

(註) 英國の一九一七、一九二四、一九二五年は愛蘭の漁獲高を除く。
 佛國は専ら遠洋漁業で大部分は「サンペール」及「ファアロー」島への出漁漁獲高である。漁獲高不明なので製品噸數を三倍して生鮮噸數に還元した。
 新著島は同様漁獲高不明なので製品噸數を四倍して漁獲噸數とした。
 日本は内地及樺太の合計で樺太は漁獲高發表なき分は製品高より適當なる係數を以て生鮮噸數に還元した。

第三節 利用の進化

水産物の利用は歐洲大戰のため食用品として多大に需要を喚起したので従來肥料其他に處理せられたるものも食用品に利用せられたので食品製造業は一時に發展を來した。其變化につき云へば戰時中鮮魚輸送困難のため従來鮮魚として需要せられしものは多く鹽藏、乾製品又は罐詰に製造せられた。就中罐詰は需要一時に起つたので各地共其製造高を激増した。主要なる種類は諾威、西班牙、葡萄牙、米國の「サーディン」、米國、加奈陀、日本に於ける鮭、鱒である。而して兩者共其増加の種類は安價

なる製品、例へば「サーディン」に於ては「メインサーデン」、鮭罐詰にありては「ピンク」「チャム」等であつた。最近に於ける傾向は鮮魚の需要は戰前に復歸し、罐詰にありては「サーディン」は減少を來せるも鮭鱒は現状を維持し最も發達を示せるは、米國に於ける鱈トマト漬、鮪類油漬及日本の蟹罐詰等である。

重要國別 鮭鱒罐詰製造高

年次	アラスカ		北米合衆國		英領コロンビア		西伯利	
	箱數	指數	箱數	指數	箱數	指數	箱數	指數
一九二〇	二、八二〇、〇六六	一〇〇	二、三三三、四五五	一〇〇	九四八、九六五	一〇〇	二五、〇〇〇	一〇〇
一九二一	四、〇六〇、一二九	—	八九二、一五〇	—	九九六、五七六	—	七七、五〇〇	—
一九二二	三、七四六、四九三	—	二、九六三、〇五三	—	一、三三三、九〇一	—	一三三、四〇〇	—
一九二三	四、〇六七、八三三	一一五	一、四六八、九一一	七一	一一一、〇三九	一〇一	一三六、〇〇〇	一七三
一九二四	四、四八九、三四一	一二七	二、〇二一、八七〇	九七	一一三、三八一	一〇三	二八九、〇〇〇	三六八
一九二五	四、九一九、五八九	一三九	一、四四〇、九五八	七〇	九九五、〇六五	九〇	四三五、八〇〇	五四一
一九二六	五、九三三、三三〇	一六七	二、六三五、〇七九	一二七	一、五七七、四八五	一四三	五一、〇〇一	六五〇
一九二七	六、六七七、五六九	一八九	一、三九八、五七四	六八	一、六一六、一五七	一四七	三八、三三七	四八五
一九二八	四、五九二、二〇一	一三〇	二、〇三八、四六六	九八	一、三九三、一五六	一二七	七四八、五二二	九五三

年次	重要種類別	レ	ド	キング及シルバー	ピ	ク	チ	ヤ	ム
一九二〇	四、三九五、九三七	一三四	七〇五、七六八	三四	一、一八七、六二六	一〇八	五七七、七八七	七三五	
一九二一	二、六〇四、九七三	七四	一、〇一七、六三九	四九	一、六〇三、五四八	五五	七〇五、四九三	八九七	
一九二二	四、五〇一、四三八	一三七	七三〇、三四七	三五	一、二九〇、三三六	一一七	七二八、一八四	九〇九	
一九二三	五、〇六三、三四〇	一四三	一、三四八、四一七	六七	一、三四一、六七七	一二三	七〇三、六六九	八九五	
一九二四	五、三〇五、九三三	一五〇	九三九、三九七	四五	一、七四五、三二三	一五九	七九九、一三〇	一〇二六	
一九二五	四、四五〇、八九八	一二六	一、六二三、四三三	七九	一、六九七、二九八	一五四	五八六、六六三	七四六	
一九二六	六、六三三、二七八	一八七	八五八、四〇六	四一	二、〇五二、四三二	一八六	九四六、一八八	一、二〇三	

年次	箱數	指數	箱數	指數	箱數	指數	箱數	指數
一九二一	一、八八四、九二七	一〇〇	一、三〇九、八五五	一〇〇	二、三七三、五九五	一〇〇	五九六、七九〇	一〇〇
一九二二	二、五八七、九三五	一〇〇	一、〇六六、一五五	一〇〇	一、五五六、一三八	一〇〇	八二四、六三〇	一〇〇
一九二三	四、七四六、三二五	一〇四	五九二、五〇五	一一二	二、三九四、六六六	一〇〇	四九九、八一三	一〇〇
一九二四	三、二〇六、九六四	一〇四	一、一一一、五八〇	一一二	一、二三九、〇一三	五九	一、二七七、八八三	二〇〇
一九二五	二、六四七、五六八	八六	一、三二五、三二五	一一四	二、八五〇、五七〇	一三五	一、二五五、四八八	一九六
一九二六	二、六〇九、八四八	八五	一、四二一、一五六	一四三	二、一六三、〇七七	一〇三	一、六一九、一三三	二五三
一九二七	三、五三四、〇五五	一二四	一、二九五、二六五	一三一	四、〇八三、一三六	一九三	一、七五三、九一四	二七五
一九二八	三、二八四、六七〇	一〇七	一、五八〇、八四三	一五九	二、九七三、四三二	一四一	二、二三〇、一〇六	三四七

年次	箱數	指數	箱數	指數	箱數	指數	箱數	指數
一九二〇	二、〇八五、三四一	六八	一、六〇八、八四三	一六三	二、六〇三、一八〇	一三三	二、五二九、九六四	三九四
一九二一	二、二五四、三三〇	七三	一、一八七、〇三九	一三〇	二、二三一、四〇九	一〇五	一、二二三、三七六	一八九
一九二二	二、四六七、五五三	八〇	八七三、四〇五	八八	一、一一一、六五七	五三	四四九、六七六	七〇
一九二三	三、〇一九、三九八	九八	九一六、二九六	九三	二、三四五、三七四	一一一	九三三、四七七	一四六
一九二四	二、八九四、四八〇	九四	九四六、〇六二	九六	三、四三八、七八六	一六三	一、一五〇、〇一八	一八〇
一九二五	二、四九九、六九八	七九	九八八、二六一	一〇〇	三、四八六、八五〇	一六五	一、八五七、四五二	二九〇
一九二六	一、九六七、九六七	六四	一、三〇〇、二九五	一三一	三、二五八、八七一	一五〇	一、八一六、九〇一	二八四
一九二七	三、〇九一、〇六五	一〇一	一、一八一、四六七	一一九	四、四〇八、九八〇	二一〇	一、七七三、五六九	二七七

(註) 單位は一封度罐四打詰一箱を基準とする。
 種類別の標準は商業取引名稱で、例へば「レッド」中には「サカエ」「アラスカ」「レッド」及「西伯利レッド」を含むが如きである。西伯利は勘察加で殆ど日本人の經營生産に係り日本品として取扱ふ。
 Pacific Fisherman "Year Book"
 日露漁業株式会社、鮭鱈年報による。

米國鱈、鮭類罐詰製造高

年次	ツナ類		鱈(カルフォニア)		メイン、サーディン		備考
	箱數	價額	箱數	價額	箱數	價額	
一九二二	七五、九〇〇	千九	一八、七七四	千九			
一九二三	七七、五〇〇		七三、六八六				
一九二四	二二七、〇〇〇		八〇、八三四		四、九三二、三六五		

年次	露領樺太内地	工船計
一九二六	二,〇四六,五〇七	六,三九〇
一九二五	一,七五三,七九	一,八七〇,七八六
一九二四	一,四三〇,一三八	五,四四五
一九二三	一,一三三,〇三三	四,六〇八
一九二二	七三九,〇三四	三,三六一
一九二一	三八九,一一二	二,三四六
一九二〇	一,〇六二,九九六	一,三九九,五〇七
一九一九	一,一五二,一五	一,八六九,七一九
一九一八	一,四八四,九七九	一,二七三,二七七
一九一七	一,一九〇,一九四	一,八九九,九三五
一九一六	一,六六,〇九五	一,八七〇,七八六
一九一五	四七,三三四	六,七二六

Pacific Fisherman, "Year Book" Fishery Industries of the United States, 1926.
日本蟹罐詰製造高 (單位函)

年次	露領樺太内地	工船計
一九二一	一〇八,〇〇八	一〇八,七五四
一九二〇	一七五,五二五	一七五,五三九
一九一九	九三,七九三	一三八,八一四
一九一八	四八,九三〇	八四,八七九
一九一七	二六,〇三八	七六,三三六
一九一六	二二,七三二	一〇三,九一五
一九一五	三六,二八三	一三一,〇九七
一九一四	六,七〇五	二二四,六二二
一九一三	三五,八一	一九〇,〇〇一
一九一二	二二,三〇七	二四一,〇〇八
一九一一	一一,一二二	三九三,九四二

年次	露領樺太内地	工船計
一九二六	一,一六〇〇	三,九六一
一九二五	五三,八三九	五,七五〇
一九二四	二六,八〇八	五,二八八
一九二三	四〇,七三九	三,九六一
一九二二	一六,三五一	三,九六一
一九二一	二〇,三七九	三,九六一
一九二〇	四八,三九九	三,九六一
一九一九	二六,〇三八	三,九六一
一九一八	四八,九三〇	三,九六一
一九一七	二二,七三二	三,九六一
一九一六	三六,二八三	三,九六一
一九一五	六,七〇五	三,九六一
一九一四	三五,八一	三,九六一
一九一三	二二,三〇七	三,九六一
一九一二	一一,一二二	三,九六一

蟹罐詰年報 (日露漁業株式會社) 年度業務報告 (蟹罐詰業水産組合聯合會) による。

第四節 需給の變轉

國際間に於ける水産物の需要關係は歐洲大戰によりて著しく變調を示して居る。其主因は重要供給國である英國と主要需要國である露、獨が交戰國の主腦者側となつたのと歐洲に於ける生産の減少せ

るに反して、魚介罐詰、鹽乾魚等の需要多大に増加した爲めである。
 其の最も變態を呈したのは英國の鯨輸出杜絶し魚介罐詰輸入激増により需要品に變じたと、北米合衆國の一時的にせよ魚介罐詰の輸出激増のため供給國側に轉じた現象である。又南米、大洋洲、阿弗利加の各地に於ける水産物輸入状態の歐洲品の減少に反比例して北米品並日本品の増加した如きは貿易系統變轉の好例である。猶種類別に云へば英國鯨の輸出杜絶を和蘭諾威鯨にて補ひ、歐洲産鱈製の供給難は北米及日本品にて救ひ又北米産鮭鱈罐詰の不足を日本品にて代用した次第である、近時に於ける傾向は戦後一時貿易は衰退せしも最近は殆んど回復し殊に魚介罐詰の輸出増加は注目値がある、其最も顯著なる例は鮭、鱈罐詰の歐洲市場に販路を擴張せしと、米國加州産鱈トマト漬罐詰の僅々數年間に輸出の約三倍増加せしと又高級罐詰たる「ロブスター」罐詰の代用品として紹介され今や却て夫れを凌駕して歐米市場に多大なる賞讃を博せる日本蟹罐詰の需要倍蓰せしが如きである。

年次	英國		國		諾		威	
	噸數	指數	價額	指數	噸數	指數	價額	指數

重要供給國輸出高

水産食品

歐洲

一九二二	五三六、六一	一〇〇	六七三、三	一〇〇	二九六、五六七	一〇〇	九五、八一三	一〇〇
一九二一	五四七、九三〇	一〇〇	七、五〇三	一〇〇	三三七、九七三	一〇〇	一一九、〇〇六	一〇〇
一九二〇	二四九、九〇七	四七	三、七八八	五三	三〇一、三八三	九五	一一二、六五三	一〇五
一九一九	六五、八八八	二二	一、四六九	二二	三九三、〇六六	一二四	二二、〇八三	一九八
一九一八	九一、四八五	一七	二、三五六	三三	三三三、二七一	一一一	三一、九一六	二九二
一九一七	二七、六四五	五	一、〇四七	一四	二四五、三五三	七七	三三、九〇八	二二三
一九一六	一九、〇〇〇	三	九、九三	一三	二四八、二九七	八〇	一九九、九九一	一八七
一九一五	一三五、八六二	二五	四、六九〇	六六	二七三、二四八	八六	二〇三、四九四	一九〇
一九一四	一九、八一九	三七	七、二二一	一〇〇	四〇〇、二四四	一二六		
一九一三	二八、八三二	五三	六、〇七一	八五	二八五、六三八	九〇		
一九一二	二二、七〇〇	四〇	四、三四七	六二	三〇〇、一六四	九四		
一九一一	二六、三三二	四九	四、五二四	六三	三三八、二四六	一〇七	一五、八七六	一四三
一九一〇	四〇、七一五〇	七九	八、四三八	一三三	三三五、〇〇六	一〇三	二六、八九三	二五〇
一九〇九	三八、八四〇	六三	七、五三三	一〇六	二九七、五六八	九三	一九四、五一七	一八一

年次	加		奈		陀		北米合衆國		日		本
	噸數	指數	價額	指數	噸數	指數	價額	指數	價額	指數	

一九二二

九、七六〇

一〇〇

一三、七三五

一〇〇

年次	噸數	指數	價額	指數	價額	指數	價額	指數
一九二五	一五八,一八六	一〇〇	一九九,九〇〇	一〇〇	一三,八八三	一〇〇	一六,三三〇	一〇六
一九二四	一五五,八九三	九九	一九,三五八	九六	一三,八九七	一一四	一五,八八三	一〇六
一九二三	一七〇,三三〇	一〇七	二一,九六三	一〇〇	二〇,〇〇九	一七七	一四,九八七	一〇〇
一九二二	一六四,一三〇	一〇三	二四,三七三	一三三	一九,九三一	一七六	一九,四一〇	一〇〇
一九二一	一七三,八二七	一〇九	三六,一六六	一八一	三〇,七四九	二七三	二一,六六一	一四四
一九二〇	一五九,八六八	一〇一	四〇,九七六	二〇五	三七,一九九	三三九	二七,〇五八	一八〇
一九一九	一七八,八六三	一一三	三三,一三〇	一六六	四八,〇三四	四三五	三三,四一二	一五六
一九一八	一九八,五六六	一二五	二九,三八一	一四七	三一,五〇五	二七六	二四,四三一	一六四
一九一七	二一七,〇三三	一三七	三〇,四五五	一五三	一五,九五二	一四二	二〇,六六二	一三六
一九一六			三三,二三八	一六六	二〇,三三〇	一七九	三三,〇四六	二二〇
一九一五			三六,七九三	一八三	二〇,七三四	一八三	三九,九六六	二六六

(註) 本輸出統計は水産食品のみの總輸出高で再輸出を含まない。
日本及北米合衆國は數量計上なきもの又は單位を異にする品種が多いので之れを略した。

重要需要國輸入高
歐洲

年次	噸數	指數	價額	指數	價額	指數	價額	指數
一九二五	一五〇,八〇〇	一〇〇	四,五七一	一〇〇	八三,七〇三	一〇〇	三六,七四四	一〇〇
一九二四	一八四,四四九	一〇五	四,八八七	一一〇	八七,三三五	八三	三八,二三三	七三
一九二三	一七六,六六一	一〇四	五,六七三	一六四	六七,一三二	七九	二七,四八八	七三
一九二二	一七七,四八九	一一二	七,七六一	二二四	六三,七五三	一四〇	一〇,二四六	二七
一九二一	一八八,六六三	一二二	一〇,六〇八	二〇五	一一三,一四四	一八五		
一九二〇	一六六,九六三	九八	九,六八二	二六七	一四八,六六一	一八五		
一九一九	一五九,〇〇〇	九三	一七,七四二	二〇三	二九八,四〇三	三七七		
一九一八	一四七,三九八	八六	一四,三四七	二七三	四三〇,三四三	五三二		
一九一七	一三六,八三三	八〇	一二,八九四	二〇一	四三〇,三四三	五三二		
一九一六	一四一,二〇三	八三	九,五一七	一八八	一三六,六〇七			
一九一五	一四九,七〇〇	八八	八,八八四	一七五	一四六,七二〇			
一九一四	一八八,五四〇	一一一	八,三五〇	二三四	一三六,六〇七			
一九一三	二二〇,〇九三	一三七	一〇,〇六六	二二八				
一九一二	三三二,七〇〇	一三〇	一〇,七六八					

其他

年次	北米合衆國		支那		ブラジル		備考
	價額	指數	價額	指數	價額	指數	
一九二五	一五,三三〇	一〇〇	一三,六六九	一〇〇	二四,〇九七	一〇〇	
一九二四	一八,七五八	一〇〇	一六,一五四	一〇〇	二九,四〇三	一〇〇	
一九二三	一八,三九八	一〇八	一六,四八二	一一〇	二三,七四七	八九	
一九二二	一七,四五五	一〇三	一八,五九三	一二五	二六,四四三	九九	
一九二一	三三,五三二	一三三	一七,四三四	一二七	二四,七三七	九三	
一九二〇	二六,一九〇	一四八	一七八七八	一三〇	二三,七三九	八九	
一九一九	二八,〇五八	一六五	一六七六三	一二三	三〇,五二一	一一四	
一九一八	三五,七六一	二一〇	一四四〇一	九七	三三,八三四	一二七	
一九一七	三五,一五五	二〇七	一七,二五五	一二六			
一九一六	二九,〇四三	一七〇	一八,四七一	一二四			
一九一五			二,八六〇	一四六			
一九一四			二五,一六〇	一六九			
一九一三			二九,七五四	一九九	四三,三三二	一五九	
一九一二							
一九一一							
一九一〇							
一九〇九							
一九〇八							
一九〇七							
一九〇六							
一九〇五							
一九〇四							
一九〇三							
一九〇二							
一九〇一							
一九〇〇							

(註) 本表は何れも水産食品の總輸入高である。而して各國共數量は計上なきか又は單位を異にするものが多く統一困難な
ので止むなく略した。

練 (罐詰を除く)

重要生産國輸出高 (單位噸)
第一表

年次	英		國		諾		威	
	鮮練	調理練	計	指數	鮮練	調理練	計	指數
一九二五	五三,一七九	四一七,八一	四六九,九九〇	一〇〇	五九,四八五	七,七四二	一三,五四三	一〇〇
一九二四	五八,三三〇	四三九,七六三	四九八,〇八二	一一〇	八一,四七四	九〇,一九七	一七,九六三	一一〇
一九二三	九,〇六三	一九三,五三九	二〇三,五九一	四二	七三,一〇一	八三,四三六	一五,八三七	一〇三
一九二二	一六七	五〇,四三一	五〇,五九八	一一	五八,〇四七	一六五,三三六	三三,二九九	一四七
一九二一	一,八八八	七五,四六九	七七,三五七	一六	一八,三〇六	一六七,八八一	一八六,一九六	一二三
一九二〇	八	一五,七八一	一五,七八九	三	五,五三四	一三八,三九三	一四三,九二七	九四
一九一九	八四六	八,九〇〇	八,九〇〇	二	一五,六〇九	一六三,七三五	一七八,六三五	一一七
一九一八	二〇,〇三七	一一五,二〇七	一六,〇五三	二四	三〇,一六六	一九七,九六九	二二八,二五八	一五〇
一九一七	一七七一〇	一四一,九九七	一六二,〇三四	二二	六〇,一五	二五六,九六一	三二七,〇七六	二〇九
一九一六	一六,三五〇	二三八,〇三二	二五五,七四二	五三	五七,四一六	一四六,九九四	二〇四,四一〇	一三四
一九一五	一五,一五〇	一六六,九六七	一八三,三七	三七				
一九一四	三五,八〇〇	二一六,一八六	二三,三三六	四八	八六,四七〇	一五〇,三三一	二三六,七九一	一五六
一九一三	五三,四〇〇	三一九,五一〇	二五,三一〇	七三	八一,〇〇三	一〇三,二二五	一八四,三三八	一二二
一九一二		二三,七〇〇	二八,一〇〇	五八	九五,九八九	九六,五三六	一九三,五一五	一二七

第二表

年次	和		蘭		加		奈		陀	
	鹽藏鍊	燻製鍊	計	指數	鮮鍊	調理鍊	計	指數		
一九九三	一〇八、七七七	一、一〇三	一〇九、八八〇	一〇〇	四、七六〇	三五、八二四	四〇、五八四	一〇〇		
一九九四	八〇、五六〇		八〇、五六〇	七三	一三、七二七	三四、九七七	四八、九七七	一三〇		
一九九五	一三〇、七六七	四、二七七	一三四、九四四	一一三	一三、九六〇	二一、四二六	三五、三八六	八七		
一九九六	六九、三九五		六九、三九五	六三	一三、四九三	二六、四八〇	三八、九七三	九六		
一九九七					一〇、九〇四	二六、一八五	三七、〇八九	九一		
一九九八	一〇三、六五五	一五、二二四	一二八、八六九	一〇八						
一九九九					一四、四〇四	三三、三九六	四六、八〇〇	一一五		
一九〇〇					七六〇	三九、八〇三	四七、四三〇	一二七		
一九〇一					一〇、六六一	三九、八六三	五〇、五二四	一三四		
一九〇二					八、六五〇	六〇、五五七	六九、二〇七	一四一		
一九〇三	六九、四六二	一三、三六七	八二、八二九	七六	一五、〇六〇	五五、六九八	七〇、七五八	一七四		
一九〇四	五三、七二三									

(註) 諸威の合計には少数の燻製鍊を含み、和蘭は鮮鍊の輸出あるも明瞭を缺くを以て略した次第である。

重要需要國輸入高 (單位噸)

第一表
重要生産國輸出高 (單位噸)
鱈製品 (眞鱈及鱈類)

年次	獨逸		蘭		加		奈		陀	
	鮮鍊	鹽藏鍊	計	指數	鮮鍊	調理鍊	計	指數		
一九九三	二九、八五五	二九、八二二	五九、六七七	一〇〇						
一九九四	七六、五〇七	二六、三六〇	一〇二、八六七	一一三						
一九九五	四五、五二四	九三、一〇四	一三八、六二八	四九						
一九九六										
一九九七										
一九九八										
一九九九	一三〇、〇〇〇	一三九、〇〇〇	二六九、〇〇〇	九三						
一九〇〇	一三三、〇〇〇	一四三、〇〇〇	二七六、〇〇〇	九四						

(註) 鹽藏鍊は一〇「バレル」を以て一噸と計算した。

第一表

年次	諸威		英	
	計	指數	計	指數
一九九三	二五、六三四	五、二四一	八八、一三三	一〇〇
一九九四	一九、九一六	六、九九九	八三、九四〇	一〇〇
一九九五				
一九九六				
一九九七				
一九九八				
一九九九				
一九〇〇				

年次	新著島	加奈陀	北米合衆國	日	本
一九二五	一六〇八八	五、四三三	七四、七九一	二〇、九〇八	九八
一九二四	一一、五四一	四、八三三	五九、九三六	七、六三一	三六
一九二三	四、〇五六	四、九四八	四三、七二六	七、四一三	三五
一九二二	八五六	九三三	一八、二六〇	六一六〇	二九
一九二一	三、五〇五	二、四四九	二四、五一二	五、〇〇〇	二三
一九二〇	四、七五八	二、四五二	二〇、五五八	七、三八九	三四
一九一九	九、九六八	五、七七七	五三、六一二	九、四四七	四三
一九一八	一五、七〇四	四、八〇八	四八、〇五三	八、四四六	四〇
一九一七	二五、七三六	二、二四九	六二、六〇〇	一一〇、一七七	九五
一九一六	一九、九〇一	二、七四七	四二、六四八	一〇、一七三	四〇
一九一五	七〇、四二九	三、三三四	二、七四九	四、二一一	四〇
一九一四	六二、三六六	三、三九五	二、七四九	四、九八七	一〇〇
一九一三	七〇、四二九	三、三三四	二、七四九	四、二一一	一〇〇
一九一二	五五、七一二	八二	三、四七七	五、二六七	一四

第二表

年次	新著島	加奈陀	北米合衆國	日	本
一九二五	七二、〇六九	四三、二二九	八八、一八	三、四三二	七四
一九二四	七、四〇一	三九、六九六	九、六三三	五、三四〇	一一六
一九二三	九、〇六〇	三三、二五二	一〇六	五、四五三	一一八
一九二二	八四、〇六〇	一三七	八九	四、九七四	一〇八
一九二一	八九、四〇〇	三七、五〇九	一〇一	四、二九七	九三
一九二〇	六八、一九〇	二七、六九五	七四	三、六五三	八〇
一九一九	七九、六〇三	三八、九九二	一〇四	二、四九〇	五四
一九一八	五八、三三五	三〇、四三〇	八三	三、一五五	六九
一九一七	六三、〇〇〇	二九、四九三	七九	四、一三〇	六三
一九一六	九三	三、四三〇	三、〇八一	四、二一〇	九〇
一九一五	一〇七	四三、二二九	八八、一八	三、四三二	七四
一九一四	一一八	三九、六九六	九、六三三	五、三四〇	一一六
一九一三	一三七	三三、二五二	一〇六	五、四五三	一一八
一九一二	一三五	三七、五〇九	一〇一	四、九七四	一〇八
一九一五	一〇三	二七、六九五	七四	三、六五三	八〇
一九一六	一三〇	三八、九九二	一〇四	二、四九〇	五四
一九一七	八八	三〇、四三〇	八三	三、一五五	六九
一九一八	九三	二九、四九三	七九	四、一三〇	六三
一九一九	九三	三、四三〇	三、〇八一	四、二一〇	九〇
一九二〇	九三	三、四三〇	三、〇八一	四、二一〇	九〇
一九二一	九三	三、四三〇	三、〇八一	四、二一〇	九〇
一九二二	九三	三、四三〇	三、〇八一	四、二一〇	九〇
一九二三	九三	三、四三〇	三、〇八一	四、二一〇	九〇
一九二四	九三	三、四三〇	三、〇八一	四、二一〇	九〇
一九二五	九三	三、四三〇	三、〇八一	四、二一〇	九〇

年次	新著島	加奈陀	北米合衆國	日	本
一九二五	七二、〇六九	四三、二二九	八八、一八	三、四三二	七四
一九二四	七、四〇一	三九、六九六	九、六三三	五、三四〇	一一六
一九二三	九、〇六〇	三三、二五二	一〇六	五、四五三	一一八
一九二二	八四、〇六〇	一三七	八九	四、九七四	一〇八
一九二一	八九、四〇〇	三七、五〇九	一〇一	四、二九七	九三
一九二〇	六八、一九〇	二七、六九五	七四	三、六五三	八〇
一九一九	七九、六〇三	三八、九九二	一〇四	二、四九〇	五四
一九一八	五八、三三五	三〇、四三〇	八三	三、一五五	六九
一九一七	六三、〇〇〇	二九、四九三	七九	四、一三〇	六三
一九一六	九三	三、四三〇	三、〇八一	四、二一〇	九〇
一九一五	一〇七	四三、二二九	八八、一八	三、四三二	七四
一九一四	一一八	三九、六九六	九、六三三	五、三四〇	一一六
一九一三	一三七	三三、二五二	一〇六	五、四五三	一一八
一九一二	一三五	三七、五〇九	一〇一	四、九七四	一〇八
一九一五	一〇三	二七、六九五	七四	三、六五三	八〇
一九一六	一三〇	三八、九九二	一〇四	二、四九〇	五四
一九一七	八八	三〇、四三〇	八三	三、一五五	六九
一九一八	九三	二九、四九三	七九	四、一三〇	六三
一九一九	九三	三、四三〇	三、〇八一	四、二一〇	九〇
一九二〇	九三	三、四三〇	三、〇八一	四、二一〇	九〇
一九二一	九三	三、四三〇	三、〇八一	四、二一〇	九〇
一九二二	九三	三、四三〇	三、〇八一	四、二一〇	九〇
一九二三	九三	三、四三〇	三、〇八一	四、二一〇	九〇
一九二四	九三	三、四三〇	三、〇八一	四、二一〇	九〇
一九二五	九三	三、四三〇	三、〇八一	四、二一〇	九〇

(註) 茲に示す製品の範圍は英國、新著島、日本は眞鱈のみであるも諾威、加奈陀及北米合衆國は眞鱈及鱈類を含む噸數である。
 又英國、新著島、加奈陀は單に開鹽鱈のみで此外燻製、鹽水漬あるも之れを略した。
 猶、日本の輸出は内地貿易港よりの輸出高で、遠洋漁業に據り、漁場より直接北米へ輸出したるものは此表には含まない。

重要需要國輸入高 (單位噸)

第一表

重要生產國輸出高 (單位噸)

年次	北米合衆國		馬		ブラジル		備考
	各種鱈	指數	各種鱈	指數	各種鱈	指數	
一九二五	一三、四八六	一〇〇	三六、八七七	一〇〇	四九、五六九	一〇〇	
一九二四	一八、三八八	一三〇	一三、八三四	一〇〇	三六、〇五一	八三	
一九二三	二〇、六六五	一四一	一三、四三八	一〇七	三三、〇三三	七六	
一九二二	二二、五〇九	一三七	二一、八三二	一〇五	三三、八三一	五五	
一九二一	一九、〇五八	一二〇	二〇、五六九	一〇四	二〇、五六九	四八	
一九二〇	四三、五七六	二六七	二一、七六三	一〇〇	二一、七六三	五〇	
一九一九	三六、〇〇四	二二八	一七、八七六	一〇六	一七、八七六	四四	
一九一八	二二、二六七	一四〇	二九、五三八	一〇六	二九、五三八	六五	
一九一七							
一九一六							
一九一五							
一九一四							
一九一三							
一九一二							
一九一一							
一九一〇							
一九〇九							
一九〇八							
一九〇七							
一九〇六							
一九〇五							
一九〇四							
一九〇三							
一九〇二							
一九〇一							
一九〇〇							

第二表

年次	佛國		伊太利		葡萄牙		西班牙	
	各種鱈	指數	各種鱈	指數	各種鱈	指數	各種鱈	指數
一九二五	四三、八四七	一〇〇	四七、三九四	一〇〇	三五、二六四	一〇〇	五三、五一〇	一〇〇
一九二四	四八、七四四	一一一	四一、二〇四	八五	三三、二五九	八二	五四、七四九	一一一
一九二三	三七、三三二	八〇	三三、三三三	七五	二七、九九〇	八一		
一九二二			一八、五〇〇	四三	二二、五七五	六六	四三、五三八	八一
一九二一					二〇、四六〇	六〇	三三、三三三	六三
一九二〇					二二、九一八	六六	二四、七七四	六三
一九一九					三二、七七六	六七	二八、七六三	六六
一九一八					三二、二六八	九三	四四、九七九	五三
一九一七					三三、二一九	九三	五五、二四五	八三
一九一六					三五、九五七	九四	五九、九四五	一一一
一九一五					三三、五一九	九四	五四、〇九九	一一一
一九一四						一〇五	六三、二〇三	一〇〇
一九一三						九八	七七、一三〇	一四三
一九一二								
一九一一								
一九一〇								
一九〇九								
一九〇八								
一九〇七								
一九〇六								
一九〇五								
一九〇四								
一九〇三								
一九〇二								
一九〇一								
一九〇〇								

年次	英國		諾威		加奈陀		備考
	鹽藏鯖指數	指數	鹽藏鯖指數	指數	鹽藏鯖指數	指數	
一九二五	一、二一六	三〇	二、四〇七	四三			
一九二四			一、七四五	三〇	四、〇七七	一三七	
一九二三			一、五七六	二八	二、八二五	九五	
一九二二					二、六二六	一二	
一九二一	六、六七三	一七三	二、二二七	三七	二、三三六	七五	
一九二〇	五、七〇七	九七	二、六九八	四七	三、一一一	一〇四	
一九一九	六、九二二	二一七	七二	二	四、六五三	一五五	
一九一八	四、七三〇	八〇	五				
一九一七	三、五六五	六〇	一一一	二	三、三九五	一一三	
一九一六	二、九六四	五〇	八七五	一五	三、三二七	一〇八	
一九一五	二、〇九一	三五	二、八六三	五〇	三、四一五	一二四	
一九一四	六、三三八	一三五	五、六三五	九八	二、八一九	九四	
一九一三	四、九九三	一〇〇	五、七二五	一〇〇	二、九八八	一〇〇	
一九一二	六、七九〇		五、七六六				

重要需要國輸入高 (單位噸)

年次	北米合衆國		備考
	鹽藏鯖指數	指數	
一九二五	二、八七六	一〇〇	
一九二四	二、八七三	一二九	
一九二三	一、四一九六	九五	
一九二二	一、二八二	四九	
一九二一	五、六〇四	四六	
一九二〇	五、四四二	六九	
一九一九	八、三三九	七三	
一九一八	八、六六八	六	
一九一七	九、〇〇一		
一九一六			
一九一五			
一九一四			
一九一三			
一九一二			
一九一一			
一九一〇			
一九〇九			
一九〇八			
一九〇七			
一九〇六			
一九〇五			
一九〇四			
一九〇三			
一九〇二			
一九〇一			
一九〇〇			

(註) 鮮鯖の貿易は多少あるも、茲には單に重要な鹽藏鯖のみを示した、又需要國は殆んど、北米合衆國のみと云へるの
で、他國を略した。

鮭 鱒 罐 詰

重要生産國輸出高 (單位噸)

年次	北米合衆國		加奈陀		日本		備考
	罐詰	指數	罐詰	指數	罐詰	指數	
一九二六	一九,六七六	一〇〇	九,四六六	一〇〇	一,四六八	一〇〇	
一九二五	二五,〇五三	一七六	二五,一六八	二八二	一,〇三四	七〇	
一九二四	三九,七六三	一六九	一四,二七五	一一七	三,五三八	二四〇	
一九二三	三七,八二二	一六〇	二〇,二四三	一一五	三,一七七	二二六	
一九二二	六九,三〇三	三三〇	一九,九一〇	一〇四	四,一九九	二八五	
一九二一	五三,四五二	二三九	一八,〇三三	一〇四	三,一七七	二二六	
一九二〇	六三,九四四	二八五	一九,六九五	一一四	四,一九九	二八五	
一九一九	七六,九一八	三四四	二五,三四五	一四六	八,五三二	五七九	
一九一八	一七,七三〇	七九	一四,一九〇	八二	一七,九九二	一二三	
一九一七	二一,五三三	九六	一九,八二九	一一四	九,一四七	六二三	
一九一六	二九,六八一	一三三	一四,六三五	八四			
一九一五	二七,〇八八	一二一	二四,五七四	一四三			
一九一四	三〇,四七〇	一三六	三五,三三〇	二〇四	一,二七四	八六四	
一九一三	二四,五六六	一一〇	三〇,四九四	一七六	一〇,四五〇	七二一	
一九一二	二一,六四七	九七					

(註) 鮭鱈製品としては、罐詰以外に鹽水漬、鹽藏等の貿易あるも少数なれば略した。
又日本の噸數は、勘察加産を含んで居る。其計算は、日本内地の輸出高と英國に輸出した勘察加産とを、綜合して計上したので、多少の相違は免れない。

重要需要國輸入高 (英國)

年次	總輸入高	指數	純輸入高	仕出		
				米	加奈陀	其他
一九二二	一八,〇三四	一〇〇	七三四,六八〇			
一九二一	三〇,四七六	一八八	一一八,〇八八			
一九二〇	四四,八二二	二一三	二二八,六三〇			
一九一九	五一,四六六	二二三	二三五,五二八			
一九一八	七〇,八一三	二九三	二九五,一一四			
一九一七	三三,七七四	一三五	一三一,九一九			
一九一六	三四,九六七	一四四	一四八,四八九			
一九一五	五七,八三七	二三八	二二〇,三〇九			
一九一四	四三,一三五	一七六	一六八,三六〇			
一九一三	二九,二八三	一三〇	一三二,九三四			
一九一二	三一,七八六	一三一	一二九,〇一五			
一九一一	二五,六七七	一〇六	一一九,一六〇			
一九一〇			一七三,九五〇			
一九〇九						
一九〇八						
一九〇七						
一九〇六						
一九〇五						
一九〇四						
一九〇三						
一九〇二						
一九〇一						
一九〇〇						

一九二五 三四七三 一四三 一四六六九 五二九〇六 四三五、六四七 四六三、六八四

一四四

(註) 仕出國別函数は、其年次の一月より十一月迄とす。又「其他」は日本(西伯利産を含む)と見て大差なし。
サーディン罐詰

重要生産國輸出高 (單位噸)

年次	佛國		西班牙		葡萄牙		諾威		米國	
	罐詰	指數	罐詰	指數	罐詰	指數	各種	指數	各種	指數
一九二五	四、八七六	一〇〇	六、一七四	一〇〇	二、五四〇	一〇〇	一七、三七〇	一〇〇		
一九二四	五、六七六	七四	六、一七四	一〇〇	二、四、五五五	七四	一七、九二二	一〇〇		
一九二三	三、九四八	七四	一、五、七三三	二五五	一、八、四八八	七四	一五、四四一	八八		
一九二二					二、五、二六九	一〇二	一七、六五九	一〇〇		
一九二一					二、四、五三七	九八	三、三、八〇三	一九三		
一九二〇					三、九、二六四	一五七	三、三、五三〇	一九二		
一九一九	四、九六七	九四	二、〇、二九一	一六四	三、九、二六四	一九九	一、〇、九二七	九〇		
一九一八			八、〇四三	一三〇	四、九、五六七	一九八	一、〇、九二七	九二		
一九一七	三、二八七	六三			五、五、六七五	二二三	一、九、八八九	一一三		九、二一八

年次	佛國		西班牙		葡萄牙		諾威		米國	
	罐詰	指數	罐詰	指數	罐詰	指數	各種	指數	各種	指數
一九二五	四、三四五	八三								
一九二四	五、三三九	一〇二								
一九二三										
一九二二										
一九二一										
一九二〇										
一九一九										
一九一八										
一九一七										

(註) 佛國、西班牙及葡萄牙は、眞鱈で多少鹽藏品を含む。
諾威は「ブリスリング」及小鱈の油漬罐詰で又、米國は少數の「メイン、サーディン」の外は鱈「トマト」漬罐詰である。

重要需要國輸入高

年次	英國		北米合衆國		加奈陀		備考
	罐詰	指數	罐詰	指數	罐詰	指數	
一九二五	八、四〇九	一〇〇	三、一七六	一〇〇	三、一五七	一〇〇	
一九二四	九、二〇五	一一〇	二、九九六	九四	三、〇九四	九八	
一九二三	八、七三二	一〇四	一、九二一	六〇	二、三六四	七五	
一九二二	一、七七八	一三九	二、四〇八	六六	一、五二八	四八	
一九二一	七、九九八	九五			一、七四九	五五	
一九二〇					二、六三	八	
一九一九	三、一三五	三七	二、四六七	六	一、六〇八	五一	
一九一八	三、五二九	四三	三、八五二	一三	一、九七七	六三	
一九一七	三、八六七	四六			一、九八八	六三	

一四五

平均價（噸建）

年次	英國		佛國		諾威		日本	
	單價	指數	單價	指數	單價	指數	單價	指數
一九二五	一九一六	一八三					三二七	一八〇
一九二四	一九一三	一八三					三六三	一九七
一九二三	一八五三	一七七					四三七	二〇三
一九二二	一九七四	一八九					四三〇	二二
一九二一	二五八〇	二四七					一五〇〇	二二九
一九二〇	二九一五	二七九					二〇〇〇	二二
一九一九	四七六三	四五六					二四二七	二二
一九一八	三四一八	三三七					二四九二	二二
一九一七	二五七二	二四七					三三八〇	一七
一九一六	三三三七	二二三					二四九二	一〇七
一九一五	二一三七	二一八					三三三三	八〇
一九一四	一〇四五	一〇〇					一五六八	八三
一九一三	九四九						一〇三三	九〇
一九一二	六〇九九						九二二三	
一九一一	六三五九						八三七六	
一九一〇	六〇九九						九三八三	
一九〇九							八二七六	
一九〇八							九二二三	
一九〇七							一〇三三	
一九〇六							一〇三三	
一九〇五							一五六八	
一九〇四							一〇三三	
一九〇三							一五六八	
一九〇二							一〇三三	
一九〇一							一五六八	
一九〇〇							一〇三三	

（註）英、佛は魚類のみで諸威は、多少介類、甲殻類を含む。日本は内地沿岸漁業に依る魚類のみである。

重要魚價

鰺（噸建）

年次	英國		蘭諾		威日		備考
	單價	指數	單價	指數	單價	指數	
一九二五	六六四	一〇〇					
一九二四	一六二五	二五九					
一九二三	二二五六	三四六					
一九二二	二二四四	三六〇					
一九二一	二四一	三三七					
一九二〇	一三八五	三三					
一九一九	一一七三	一八八					
一九一八	四五〇	六					
一九一七	七七九	一七					
一九一六	一一二四	一六七					
一九一五							
一九一四							
一九一三							
一九一二							
一九一〇							
一九〇九							
一九〇八							
一九〇七							
一九〇六							
一九〇五							
一九〇四							
一九〇三							
一九〇二							
一九〇一							
一九〇〇							

眞鱈（噸建）

年次	英		蘭		威		日		本	備考
	單價	指數	單價	指數	單價	指數	單價	指數		
戰前	100.67	100	100	100	100	100	275	100		
一九一一年	24.60	233	139	131	338	334	208	208	6	
一九一二年	33.45	319	377	334	365	338	267	267	97	
一九一三年	54.00	495	430	365	365	365	488	177	97	
一九一四年	79.94	756	444	366	366	366	680	247	97	
一九一五年	44.33	435	400	365	365	365	680	247	97	
一九一六年	30.96	304	337	365	365	365	950	346	239	
一九一七年	30.5	304	337	365	365	365	656	239	250	
一九一八年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	250	
一九一九年	23.5	210	266	231	331	331	633	240	235	
一九二〇年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九二一年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九二二年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九二三年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九二四年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九二五年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九二六年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九二七年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九二八年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九二九年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九三〇年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九三一年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九三二年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九三三年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九三四年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九三五年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九三六年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九三七年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九三八年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九三九年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九四〇年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九四一年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九四二年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九四三年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九四四年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九四五年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九四六年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九四七年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九四八年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九四九年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	
一九五〇年	19.96	186	185	161	197	197	688	250	235	

鱈、（諾威は「ブリスリング」日本は眞鱈）（噸建）

年次	英		蘭		威		日		本		備考
	單價	指數	單價	指數	單價	指數	單價	指數	單價	指數	
戰前	100.67	100	100	100	100	100	275	100	100	100	
一九一一年	24.60	233	139	131	338	334	208	208	6	6	
一九一二年	33.45	319	377	334	365	338	267	267	97	97	
一九一三年	54.00	495	430	365	444	366	365	365	488	177	
一九一四年	79.94	756	444	366	444	366	366	366	680	247	
一九一五年	44.33	435	400	365	400	365	365	365	950	346	
一九一六年	30.96	304	337	365	365	365	365	365	656	239	
一九一七年	30.5	304	337	365	365	365	365	365	656	239	
一九一八年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九一九年	23.5	210	266	231	331	331	331	331	633	240	
一九二〇年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九二一年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九二二年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九二三年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九二四年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九二五年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九二六年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九二七年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九二八年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九二九年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九三〇年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九三一年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九三二年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九三三年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九三四年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九三五年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九三六年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九三七年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九三八年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九三九年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九四〇年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九四一年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九四二年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九四三年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九四四年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九四五年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九四六年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九四七年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九四八年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九四九年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	
一九五〇年	19.96	186	185	161	197	197	197	197	688	250	

（註）各重要魚價表に用ゐたる戦前の基準は左の如し。
 英蘭は一九〇九年より一九一三年迄の平均價。
 諾威は一九一一年一九一三年の平均價。
 日本は一九一一年一九一二年一九一三年の平均價にして、内地沿岸漁業に據る魚類である。

第六節 投資と生産

水産業の重要固定資金である漁船、漁具價に對する漁獲總價、並に漁船、漁具價、陸上設備費及製造工場設備費等に對する生産總額の割合は、國によりて勿論一定せざるも、大體に於て各國共戰時好況時代は、戰前に比して比率宜しく、最近はその割合の著しく遞減を示して居る。換言すれば水産企業の設定完全を要求する時代の出現と云ふべきか。

單に漁船のみにつき考ふるも、動力附漁船の如何に増加せるかを見れば、此間の半面を窺ふに足らん。

漁船、漁具價と漁獲總價との比率

蘇 格 蘭 (單位千磅)

年次	漁船價	漁具價	計	指數	漁獲總價	比率
一九一九	四七五六	一〇二一	五、七七七	一〇〇	三、六五六	六三
一九一九	四九八八	一〇四七	六〇三五		三、九九八	六四
一九一九	五三四七	一〇五〇	六、二九七	一〇七	三、三〇八	五二
一九一九	一四一三	二五五	一、六六八	二八	二、一〇九	一三六
一九一九	一四六一	三六六	一、八三七	三三	三、三〇六	一七五
一九一九	一四八七	四一五	一、九〇三	三三	三、七〇五	一九五

威 諾 (單位千クローネ)

年次	漁船價	漁具價	計	指數	漁獲總價	比率
一九一九	二、二八二	八五七	三、〇三八	五三	六、〇六六	一九九
一九一九			九、二二三	一五五	六、一四八	六七
一九一九			一一、九一六	二〇二	六、六二七	五六
一九一九			七、九〇七	一三四	五、〇二二	六三
一九一九			五、六三七	九五	四、〇七七	七三
一九一九			四、八一七	八二	三、五二二	七三
一九一九			四、七七六	八一	四、七五五	一〇〇
一九一九			四、九一二	八三	四、五五四	九三
一九一九			五、八、四五三	一〇〇	九、一、五四	一五六
一九一九	三、七、三〇九	二、一、四三	六、一、二二	一〇四	九、八、〇一七	一六一
一九一九	四、〇、八八六	二、〇、三三五	七、二、二六	一三四	一、一、八、一六三	一五二
一九一九	五、三、四七六	二、五、七三七	一、二、九、八九七	二二二	二、三、三、一四六	一七二
一九一九	八、三、二八八	四、六、六〇九	一、六、一、六七三	二七六	一、七、九、七六七	一一二
一九一九	九、九、三二一	五、三、三六一	二、〇、〇、四一六	三二五	一、七、五、一、四七	八七
一九一九	一、三、三、七九〇	六、七、六三六	二、一、〇、七〇九	三三三	二、〇、〇、四五六	九五
一九一九	一、三、八、〇六三	七、三、六四六				

年次	漁船價	漁具價	其他漁業罐詰、其他陸上設備費工場設備費	計	指數	生産總價	比率
一九二〇	二六、八〇八	六八、三二五	一八五、〇三三	二四、三八八	一〇〇	一六三、三四三	八八
一九二一	一一三、三九三	五六、〇八九	一六九、三八一	二七、四六四	九五	一〇三、三〇三	六二
一九二二		四五、四七六		二四、七三三		一三四、五八〇	

漁業、製造固定資金と生産總價との比率

加 奈 陀 (單位千弗)

年次	漁船價	漁具價	其他漁業罐詰、其他陸上設備費工場設備費	計	指數	生産總價	比率
一九二二	七、七四四	四、一五五	一三、四八九	二四、三八八	一〇〇	三三、三八九	一三六
一九二一	七、九三八	三、四三三	一五、七六一	二七、四六四	九五	三三、二〇八	一二一
一九二〇	八、三四八	三、三三三	一三、〇七一	二四、七三三		三二、二六四	一二七
一九一九	八、九四〇	三、五四四	一三、三七二	二五、八五五	一〇〇	三五、八六〇	一三九
一九一八	一〇、〇九六	四、四八五	一四、一四六	二八、七二九	一一一	三九、二〇八	一三七
一九一七	一三、〇三九	五、三四七	九、三九〇	四七、一四三	一八三	五三、三一二	一二一
一九一六	一三、八四九	六、一七五	九、八五五	六〇、二二一	三三三	六〇、二五二	一〇〇
一九一五	一五、二三八	六、三三二	九、八二六	五四、五七七	二二一	五六、五〇八	一〇三
一九一四	一六、一七五	六、六九七	七、〇二〇	五〇、四〇五	一九五	四九、二四二	九六
一九一三	一三、七〇六	九、〇二〇	三、五三〇	四五、六六九	一七六	三四、九三二	七六
一九一二	一三、六〇一	八、八一七	三、三三〇	四七、七六四	一八四	四一、九〇八	八八

年次	汽船	發動機船	計	汽船	發動機船	計	備考
一九二二	一一、一三三	八、五三三	二、九七九	二四、〇二七	四七、六五一	一八四	四二、五六五
一九二一	一二、二二三	八、七九五	三、二二二	二〇、三〇四	四四、一五六	一七二	四四、五三四

動力附漁船數

年次	汽船	發動機船	計	汽船	發動機船	計	備考
一九二二	一七五	二、三四一	二、五一六	二〇五	六、四七六	六、六八一	
一九二一	一二七	二、六七三	二、八〇〇	二一〇	七、四〇九	七、六一九	
一九二〇	一七五	二、九三五	二、九七六	二〇六	八、三四六	八、五五二	
一九一九	一七五	三、一九八	三、二六六	二二八	一〇、四一六	一〇、六三四	
一九一八	九	三、九三三	四、〇三三	二八七	一一、一〇八	一一、二七五	
一九一七	一七二	五、六一四	五、七六五	二八九	一二、一六九	一二、四三六	
一九一六	一四七	六、〇七〇	六、二二七	二八七	一三、一九六	一三、四三六	
一九一五	一三一	七、〇三二	七、一六三	三二八	一四、八六五	一五、一五三	
一九一四	一三七	八、九四一	九、〇六八	三四三	一五、六四五	一五、九六三	
一九一三	一〇八	一〇、七五四	一〇、八六一	三四四	一六、六二五	一六、九六九	
一九一二	一〇八	一二、七〇五	一二、八一三				

附 參考書

一、主なる統計書其他

國際水產統計資料	水產講習所
調查資料	農商務省
農商務統計	臨時產業調查局 第三十八號、第五十一號、第五十二號、第五十三號
農林統計	農商務省
商工統計	農林省
工場統計	商工省
大日本貿易年表	同上
水產寶典	大藏省
水產年鑑	大日本水產會
臺灣水產要覽	帝國水產會
朝鮮水產要覽	臺灣總督府 朝鮮水產會

樺太水產要覽	樺太廳
樺大之水產	同上
歐米卸賣市場概覽	東京市商工課
(魚類及冷蔵の部)	
鮭鱒年報	日魯漁業株式會社
蟹罐詰年報	同上
東京市魚市場年報	東京市魚市場
檢查月報、及年報	蟹罐詰業水產組合聯合會
Fisheries statistics.	

Bureau of statistics Canada.

Custom Returnes of Newfoundland.

Annual Report of the Commissioner of Fisheries.

Fishery Industries of the United States.

Department of Commerce, U. S. A.

Report on Sea Fisheries.....England & Wales.

Ministry of Agriculture & Fisheries.

Annual Report of the Fishery Board for Scotland.

Sea Fisheries statistical Tables.

Fishery Board for Scotland.

Statistical Tables of the Sea and Inland.

Fisheries of Ireland.

Norges Fiskerier.

Norges of Fisielle Statistik.

Yalresbericht uber die Deutsche Fischerei.

Fisheris and Marine Biological Survey.

Union of South Africa.

Pacific Fisherman, Year Book.

The Statesman's, Year Book.

Marine Product of Commerce.

Donald, K. Tresslar.

二、主なる雜誌其他

海外商報

水產界

帝國水

水產研究誌

雜誌時報

日本冷凍協會誌

臺灣水產雜誌

朝鮮之水產

The Fish Trades Gazette.

The Fishing News.

Fishing Gazette.

The Canner.

Pacific Fisherman.

The Canadian Fisherman.

外務省通商局

大日本水產會

帝國水產會

樂水會

雜誌普及協會

日本冷凍協會

臺灣水產協會

朝鮮水產會

London.

"

New-York.

Chicago.

Seattle.

Quebec.

終